

## 第6期(2018) 活動経過報告

## 第7期(2019) 運動方針

様々な「変化」に対応し、「直接対話」による風土改革を実現しよう

～ 一人ひとりの価値観を尊重し、やりがい・働きがいに繋げる ～

三越伊勢丹グループ労働組合 定期本部大会議案書(案)

2019年10月3日



三越伊勢丹グループ労働組合  
Isetan Mitsukoshi Group Labor Union

■三越伊勢丹グループ労働組合ホームページ

<http://www.imgu.or.jp/>



■三越伊勢丹グループ労働組合 Facebook



■三越伊勢丹グループ労働組合 LINE@



ユーザー名：企業コード(2桁)+社員コード(8桁)

パスワード：im (全て半角小文字)

# 第7期（2019年度）定期本部大会 議案書（案） 目次

1. 議事日程	1
2. 第6期 経過報告	
本部	4
三越伊勢丹支部	7
北海道統括支部	8
仙台三越支部	9
新潟三越伊勢丹支部	10
静岡伊勢丹支部	11
名古屋三越支部	12
広島三越支部	13
高松三越支部	14
松山三越支部	15
岩田屋三越支部	16
エムアイフードスタイル支部	17
エムアイカード支部	18
ソシエ・ワールド支部	19
関連グループ統括支部Ⅰ	20
関連グループ統括支部Ⅱ	21
関連グループ統括支部Ⅲ	22
関連グループ統括支部Ⅳ	23
3. 第6期（2018年度）決算報告・剰余金処分(案)	25
4. 第7期 運動方針(案)	
本部	38
三越伊勢丹支部	41
北海道統括支部	42
仙台三越支部	43
新潟三越伊勢丹支部	44
静岡伊勢丹支部	45
名古屋三越支部	46
広島三越支部	47
高松三越支部	48
松山三越支部	49
岩田屋三越支部	50
エムアイフードスタイル支部	51
エムアイカード支部	52
ソシエ・ワールド支部	53
三越伊勢丹ビジネス・サポート支部	54
三越伊勢丹プロパティ・デザイン支部	55
三越伊勢丹システム・ソリューションズ支部	56
三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ支部	57
関連グループ支部Ⅰ	58
関連グループ支部Ⅱ	60
5. 第7期（2019年度）会計予算(案)	62

## 第7期（2019年度）定期本部大会 議事日程

1. 開会宣言
2. 議長団選出・登壇
3. 書記任命
4. 議事運営委員選出
5. 成立確認・資格審査報告
6. 議事日程発表・承認
7. 議事開始宣言
8. 提案

第1号議案「監査報告の件」

第2号議案「第6期（2018年度）活動経過報告に関する件」

第3号議案「2018年度 決算報告および剰余金処分（案）に関する件」

第4号議案「第7期（2019年度）運動方針（案）に関する件」

第5号議案「2019年度 予算（案）に関する件」

第6号議案「組合理約の改訂（案）および組合理約改訂の承認に関する件」

第7号議案「本部評議員の互選に関する件」

第8号議案「選挙管理委員の指名に関する件」

9. 質疑応答
10. 修正提案・質疑応答
11. 採決
12. 議事終了宣言・議長団降壇
13. 本部執行委員長挨拶
14. 閉会宣言

### 2019年度 定期本部大会 開催要項

○日時：2019年10月3日(木)11:00～(10:30 受付開始)

○場所：ヒューリックホール

東京都台東区浅草橋1丁目22-16ヒューリック浅草橋ビル2F

○出席者：第6期本部役員・本部大会代議員・オブザーバー



## ■ 第6期(2018)

### 活動経過報告

## ■ 2018年度

### 決算報告および剰余金処分(案)

## テーマ

## メンバー全員で直接対話を実践し、変革に向けて挑戦しよう

～1人ひとりの想いを組織の活力へと繋げるために、直接対話をはじめとした活動に取り組む1年間～

第6期は、メンバーの多様性の考え方が変化しているなか、それらを組織の「ちから」とするため、メンバー一人ひとりの声を直接対話により吸い上げることに重点を置いた活動を進めてきました。

一方、会社は経営計画において「リフォーメーション」「トランスフォーメーション」が進められるなか、前年度に引き続き、三越伊勢丹グループ全体にも影響を与える判断がなされました。

<第6期の主なトピック>

- 伊勢丹相模原店・府中店、新潟三越、岩田屋久留米店新館をはじめとした店舗の営業終了
- IMDS 事業、IMGS ブランド事業、レオテックスオーダーワイシャツ事業の終了
- 三越伊勢丹プロパティデザインのBM事業の会社分割・事業承継
- 経営における「私たちの考え方」をベースとした「三越伊勢丹グループ中期経営計画」の策定

経営の判断が早いスピードで変化し、私たちを取り巻く環境が大きく変わろうとするなか、第6期については

① 経営対策活動の強化

- ・経営との対話活動について、各支部でより活発な議論ができる関係・スキームの構築
- ・よりタイムリーに現場の意見を集約し、経営(会社)へフィードバックするといった、課題改善のサイクルを構築する

② メンバー接点の充実化

- ・メンバーの利便性向上と、より「タイムリーかつ広く報せる」ためのHPやSNS等のデジタルツールの活用
- ・より直接対話を推進するため、VOICE活動のあり方や対話のためのツール(議案書や動画等)の検討

③ 多様化への対応

- ・従来の育児介護以外の分野に関する活動をスタート
- ・活動を企画、推進するにあたり、メンバーの「多様性」を踏まえて取組みを進める

④ 執行部人財の育成

- ・本部教育の充実化と各支部役員教育へのサポート

を重点活動として位置づけ、活動に取り組んできました。

【第6期における重点活動の振り返り】

① 経営対策活動の強化

- ・HDSと本部の議論を定期的に行いつつ、各支部労使間においてもより本音の議論ができる体制の整備を図ってきました。また、春の交渉時のVOICEの意見集約を行い、経営との議論に繋がりました。
- ・各支部書記長に対して、財務諸表に関する議論や財務分析のスキル向上に向けた勉強会を実施しました。

② メンバー接点の充実化

- ・メンバーに組合活動をより理解してもらうために、デジタルサイネージやLINE@を活用した情報発信を定期的に発信しました。
- ・直接対話の推進に向けた活動のあり方については、VOICE活動のスキーム構築に課題を残しました。

③ 多様化への対応

- ・第6期より、「育児」「介護」以外の新たな分野として「疾病」「障がい」「LGBT」に関する研究をスタートさせました。IMGUの考える多様性の考え方に基づき、外部セミナーへ参加し、組合役員向けのセミナーを開催し理解促進に繋がりました。

④ 執行部人財の育成

- ・本部評議員会において分科会を開催し執行部間の議論を行っていましたが、各支部執行部間のコミュニケーションには課題を残しました。

●労働福祉活動

■グループ労使間での協議の推進

- ・グループ共通制度の成案化に向けて HDS 人事部との協議を進めると共に、新体制における労使協議の新たなスキームの構築を行いました。

■働き方改革に向けた取組み

- ・総実労働時間短縮に向けてグループ共通で有給休暇促進に取組み、一部の支部で所定労働時間の短縮を行いました。
- ・ハラスメント防止に向けて、グループ全体の啓発強化施策としてリーフレットを発刊しました。

■評価制度の納得性向上に向けた取組み

- ・従業員意識調査結果の分析を行い、全支部共通で活用できるツールの検討を行いました。

●経営対策活動

■リフォーメーションへの対応

- ・各支部労使間での議論状況を踏まえ、本部・HDS 労使間で状況確認や議論を行いました。

■VOICE 活動のスキーム構築によるチェック機能とパイプ機能の強化

- ・VOICE の状況を本部で集約して経営との議論を行うに留まり、スキームの構築には課題を残しました。

●ダイバーシティ推進

■新たな育児支援・介護支援の取組み

- ・共済会と連携し、新たな育児・介護支援として補助金制度を4月からスタートしました。

■新たな支援活動に向けた研究検討

- ・組合教育において「介護」に加え、「健康と疾病」を新たなカリキュラムとして組み入れました。

●U S R 活動

■支援団体との関係性の再構築

- ・東北復興支援活動、折鶴献納、本支部支援団体の活動のあり方について検討しました。

●教育サポート活動

■ユニオンプランのあり方の見直し

- ・集合研修、自己啓発、公募型セミナーなど、組合教育の考え方と具体的な内容を検討し、7月から首都圏でキャリアライフ・プランニング研修①（旧ミドルライフプラン）を開催しました。

■海外流通視察セミナーの実施に向けた企画

- ・企業環境や活動の優先順位を踏まえ、第6期の実施には至りませんでした。

●広報活動

■メンバー接点の充実化に向けたHPやSNS ツールの活用

- ・デジタルを活用した活動の周知について、本部広報の定期的な発刊およびタイムリーな情報発信など課題を残しました。

●政治活動

■政策実現に向けた政治活動に関する議論の深耕

- ・組合が政治活動を行う目的や考え方について、メンバーの理解促進や定着を深める活動と共に、7月の参議院選挙に UA ゼンセンの代表として国民民主党より立候補した「田村まみ」の支援活動を行いました。

●組織政策

■ユニオンホットラインの活用サポート

- ・第6期より組合相談専用窓口を設置し、ハラスメントリーフレットに記載し周知を図りました。

■執行部人材育成の強化

- ・本部に主催によるユニオンセミナー・ユニオンスクールを定例開催しました。



<ハラスメントリーフレットの発刊>

<意識調査回答結果>

14,073 件 (62.4%)

<2018 年度ユニオンプラン>

- ◆シニアライフサポートプラン  
【グループ全体】 237 名
- ◆キャリアライフ・プランニング研修①  
【首都圏開催】 216 名  
※札幌・名古屋・福岡は

<U S R 活動実績>

- ◆石巻ボランティア：62 名  
(18 秋：30 名、19 春：32 名)
- ◆広島折鶴献納：46,046 羽
- ◆エコキャップ回収：1,591,000 個
- ◆2018 中古衣料回収：3,322 点



<ユニオンセミナー講師>

- ◆2018 年 10 月  
白石 康次郎氏 (海洋冒険家)  
藤原 和博氏 (教育改革実践家)  
杉原 淳一氏 (日経新聞記者)
- ◆2019 年 5 月  
奥谷 孝司氏  
(オイシックス・ラ・大地(株) COCO)  
川上 昌直氏  
(兵庫県立大学 教授)  
為末 大氏  
(DEPORTAREPARTNER 代表)

## 政策・政治活動

### ○ 基本的な考え方

- IMGU は、組合員の生活向上をめざして、労使間の取り組みでは解決できない、国や地域における様々な社会的課題を改善するために、組合活動の一環として政策・政治活動を行っています。
- 政治活動は、公職選挙法などの政治や選挙に関する法令を遵守しつつ推進するとともに、服務規律等の社内ルールを遵守し、組合活動の一環として就業時間外に行います。

### ○ 労働組合が行う政治活動

#### ■ 政策を実現するための政治活動に対する理解促進

- 労働に関する法律改善や産業レベルの問題など、労使では解決できない課題に対応するためには、政治活動を通じた政策実現が必要になります。労働組合が政治活動を行う目的や考え方について、メンバーの理解や定着を進める活動を行います。

#### ■ 公民権行使活動

- 選挙権の行使は、日本国民の権利であり、市民としての義務といえます。議会制民主主義や政治の仕組みを理解し、よりよい社会づくりに参画することは社会的にも求められています。
- 労働組合は、メンバーに対し、政治信条等にかかわらず、市民としての政治参画や公民権の行使を促す活動を行います。

#### ■ 国会や地方議会の議員および候補者に対する支援活動

- IMGU は、国や地域における生活者や働く者にとっての課題、また流通サービス産業の課題を解決するための政策実現を目的として、そのような政策に取り組む国会や地方議会の議員およびその候補者に対する支援活動を行います。

### ○ 第 6 期に行った主な政策・政治活動

#### ■ 悪質クレーム対策の状況

- 長時間の拘束や暴言などの「悪質クレーム」は従業員のストレスや職場の魅力低下につながります。昨年実施した 176 万筆の署名は厚生労働大臣や消費者庁に提出されました。
- 5 月に成立した女性活躍・ハラスメント規制法の付帯決議では、職場内のハラスメントに加えて、顧客など社外からの迷惑行為、ハラスメントへの対応の必要性についても確認されました。
- また、私たちの働きかけにより、国民民主党から「悪質クレーム対策推進法案」が国会に提出されましたが、成立には至らず、引き続き国や社会への働きかけを継続していきます。



暴言や長時間拘束

悪質クレーム啓発動画（UA ゼンセン作成）

[https://uazensen.jp/claim\\_cm](https://uazensen.jp/claim_cm)



#### ■ 「田村まみ」支援活動

- 2019 年 7 月に実施された第 25 回参議院選挙に、UA ゼンセンの代表として国民民主党より立候補した田村まみの支援活動を行いました。IMGU では田村さんを招いた講演会の実施や、各支部において後援会加入活動などの支援を行いました。
- 田村さんは約 26 万票を獲得し、国民民主党比例代表において第 1 位での初当選となりました。ご協力ありがとうございました。
- この結果、私たちの代表として国会で活躍する議員は、2016 年の参議院選挙で当選した「かわいたかのり」議員と「田村まみ」議員の 2 人となります。今後、私たちのめざす政策の実現にむけて、国会の場で活動を行います。



田村まみ と かわいたかのり

#### 【UA ゼンセンの主な政策】

『悪質クレームへの対応』  
サービスを提供する側と受ける側が共に尊重される社会をめざします。

『休日保育などの充実』  
子育てしながら安心して働けるように、子育て支援策の充実に取り組みます。

『食品ロスへの対応』  
地球環境に配慮したエコ消費を推進します。

田村まみ 公式ホームページ  
<https://mamitamura.com/>



かわいたかのり 公式ホームページ  
<http://kawai-takanori.jp/>



## テーマ

## 一人ひとりの「ちがい」を「ちから」に

～変化と向き合い、誰もが輝ける職場づくりを全員で前進させよう～

第6期は第5期と同様にダイバーシティを重視したテーマを掲げスタートしました。一方、店舗や事業の構造改革や「ビジネスモデルの革新」「デジタルを活用した新たな事業」などの成長戦略が示され、大きな変化にも直面しました。事業の構造改革に関する労使協議や働き方の変化に関する職場の課題解決に取り組む一方、「働きやすさ日本一」にむけ所定労働時間の短縮も実現しました。

分野別活動においては、兼任・専従の執行委員が連携しそれぞれの活動を推進しました。

### ●経営対策活動

- ・店舗や事業の構造改革に際しては、状況に応じた労務面の対応協議やキャリア選択にむけたメンバーへの情報提供、営業終了にむけ店舗の運営体制の確認をおこないました。
- ・2018年度に発信された成長戦略に基づき、「既存事業のビジネスモデルの革新」を中心に機関会議やテーマ別 VOICE での課題抽出と、解決にむけた経営との意見交換をおこないました。

### ●労働福祉活動

#### <人にかかわる諸制度の見直し>

- ・「公平・公正」「チャレンジする風土」「中長期のやりがい」「一定の安心感」をふまえ、ステージ C・メイト社員の制度改定を協議しましたが、組織改正をふまえ2019年度導入を見送りました。
- ・業績変動と賞与水準の本来のあり方を検討するため、これまでの業績連動賞与を廃止しました。また社員ステージ C・メイト社員は、6月・12月の水準バランスの見直しをおこないました。

#### <働く環境の整備>

- ・働きやすさ日本一の実現に向けて、社員・メイト社員・エルダースタッフ（月給制）においては、年間132時間（1972時間→1840時間）の所定労働時間の短縮をおこないました。
- ・対話を通じて新たな価値を生み出す職場風土の実現にむけ、労使間で企業として「目指すべき職場風土のあり方」や「実現に向けた取組み」の検討を開始しました。

### ●ダイバーシティ推進

- ・「広義なダイバーシティ」の実現にむけ、機関会議で担当役員間での基礎知識を共有しました。
- ・育児サポートでは基幹店に加え立川店・浦和店でもワーキングファミリー VOICE を開催し、介護サポートでは一部の店舗で介護に関する基礎的な知識を学ぶセミナーを開催しました。

### ●VOICE 活動

- ・メンバーズ VOICE では7月以降デジタルツール等を活用し動画の配信や意見・質問シートを見直し、メンバーとの接点の補完機能を充実させました。
- ・テーマ別 VOICE は分会ごとの課題をふまえた個別のテーマ別 VOICE を中心に開催し、共通テーマ別 VOICE は制度改定に進捗をふまえ実施を見送りました。

### ●教育サポート活動

- ・ユニオンプランでは、「変化に対して自分の軸をもって対峙していくための土台となる考え方」をカリキュラムに取り入れました。健康に対する意識の向上のための睡眠力向上セミナーを募集型で開催しました。
- ・受講後のフォロー体制づくりについては、課題の共有に止まりました。

### ●USR活動

- ・幅広いメンバーが参加できるように、新たに動物愛護などの啓発型セミナーを行いました。
- ・支援団体については新たに動物ボランティア団体を加え、既存の就労移行支援団体との取組みを深化しました。

### ●広報活動

- ・VOICE Times は手軽に閲覧ができるよう、データ配信による発刊に見直し、企業の動向に関するテーマを扱いました。一方でタイムリーな発刊という面では課題が残りました。
- ・ホームページを活用した活動報告は、分野別活動の報告を中心に行いました。



相模原店・府中店情報交換会



2019年度春の交渉



ワーキングファミリー VOICE



メンバーズ VOICE



啓発型セミナー（動物愛護）

## テーマ 北海道統括支部で働くメンバー、一人ひとりの新たな「誇り」を共創する

第6期では、北海道統括支部の札幌丸井三越、函館丸井今井、北海道百科で働くメンバー、一人ひとりの新たな「誇り」を共に創り上げていく(=共創)ことを目的とした新たなテーマのもと、多様な立場のメンバーが対話によって繋がり、コミュニティを築き、連携を深める活動の支援に取り組みました。その中で処遇の改善、安心して働くことができる環境の実現、コミュニケーションの促進による一体感の醸成に繋がる活動の推進を行いました。

### ●VOICE活動

- ・メンバーズ VOICE では、各社の営業方針の浸透を図ると共に、現場課題の課題に取り組み、その課題について各労使会議で協議を行い、解決に繋げることができました。
- ・メンバーとの対話をより活性化させるテーマ別 VOICE (雇用形態、職務など) やエリア別 VOICE (職場、小型店など) の定期開催、現場兼任役員による対話や、出席確認などの連携強化を行い参加率の向上を図りました。

### ●労働福祉・経営対策活動

- 人事賃金制度改定や働く環境の整備
- ・労働条件の向上として、ベースアップや賞与水準向上に向けた協議を行いました。また、中期に目指す労働条件については、各社の中期経営計画策定の進捗を確認しながら、継続議論となりました。

### ●USR活動

- 北海道の新たな地域貢献活動「道産子スポーツ応援レク」を初開催
- ・地域貢献の新たな活動として、「日本ハムファイターズ(参加30名)」や「コンサドーレ札幌(参加21名)」のスポーツ観戦レクを札幌で初開催しました。
- 札幌・函館の支援団体との交流
- ・札幌での「羊ヶ丘養護園」の子どもたちとのクリスマスパーティーの開催や、函館での「さゆり園」へクリスマスプレゼントの寄贈といった継続的な交流を行いました。

### ●教育サポート活動

- 各支部、分会独自のキャリアセミナーを開催
- ・札幌丸井三越、函館丸井今井ともに現場兼任役員が中心に運営に携わり、メンバーのキャリア形成とライフ充実に繋げる独自のセミナーを開催しました。また、北海道百科では遠隔地のメンバーも参加可能な北海道産食品を学ぶグルメセミナーも初開催しました。

### ●育児・介護サポート活動

- 育児に携わるメンバーへ育児 VOICE に取り組む
- ・札幌・函館両地域にて育児 VOICE を開催し、育児に携わるメンバーとの情報共有と対話を強化しました。
- 介護の個別相談会・ユニオンプランでの介護教育カリキュラム化に取り組む
- ・札幌では、メンバーに寄り添った個別相談会を開催するとともに、各支部分会のユニオンプランでは、介護サポート百科を活用した支部独自の教育を行いました。

### ●レクリエーションサポート活動

- 各支部、分会の団結会や各地域の職場懇親会の開催
- ・コミュニケーションの促進を目的に札幌「マルミツ納涼の会」、函館「五稜郭移転50周年記念団結会」など労使共催の団結会を開催、さらに各地域では職場懇親会を開催しました。

### ●広報活動

- ・新たな広報誌として函館丸井今井では周年記念誌、北海道百科では定期広報誌「北海道百科事典」を創刊しました。また、新たに Yammer を活用し、発信力の拡大を行いました。

### ●政治活動

- ・私たちの働く環境改善のための政策実現(悪質クレームや休日保育充実に向けて) UA ゼンセンから参議院議員に擁立された田村まみの支援と周知活動を行いました。



VOICE活動



労使協議会



道産子スポーツ応援レクリエーション



羊ヶ丘養護園の支援



キャリアセミナー



団結会

# 仙台三越支部 第6期(2018年度)活動報告(案)

## テーマ

## 一人ひとりがチャレンジできる、みんなが創る

～ONE for ALL、ALL for ONE～

第6期は「仙台三越＝日本一働きやすい会社」を目指す1年として諸活動を推進してきました。日々変わりゆく商環境の変化に対応して、我々の働く環境も変化しています。その中で『安心して働くことができる組織』『互いを理解し一体感のある組織』『一人ひとりのチャレンジが認められる組織』を創るべく、メンバーの声をもとに組合諸活動を推進してきました。

### ●VOICE活動

〔ポイントの明確な発信とメンバーの声を集約することに重点を置いたVOICE活動の実施〕

- ・メンバーVOICE参加率(11月61.4%、2月51.9%、7月58.1%)
- ・より多くの声を集約するため、次期に向けデジタルツールを活用し効率的な実施を検討

### ●労働福祉活動

〔商環境・企業状況・メンバーの声を踏まえた労使通年協議の推進〕

- ・ベースアップ：2019年4月～(月給者1,000円、時給者5円)
- ・雇用形態別、人事賃金制度の見直し  
(フェロースタッフ：年間評価・昇給から半期評価・昇給へ)  
(シニアスタッフ：賞与加算から評価別支給表へ)
- ・働く環境の整備  
(年間所定労働時間1,972時間から1,847時間へ短縮)  
(VOICE活動や職場委員会を通じて、労働時間管理や休日取得等に関する教宣活動)

### ●経営対策活動

〔職場会議と連動させパイプ機能をより強化した経営懇話会の実施〕

- ・年度計画や業績に対する進捗確認。職場会議やVOICE活動で集約した声の提言
- ・次期に向けメンバーへのフィードバック方法を検討

### ●USR活動

〔地域・社会への貢献とメンバー間の関係性強化の推進〕

- ・グリーン作戦(延べ121名※2019年8月現在)
- ・エコキャップ回収(延べ65,188個※2019年8月現在)
- ・愛の募金活動(合計123,708円※2018年冬2019年夏)
- ・3.11復興支援活動 名取市閑上地区視察(10名参加)
- ・広島平和活動(折鶴1,380羽送付)
- ・中古子供衣料回収(男女計391枚送付)

### ●教育サポート活動

〔キャリア・年代別ユニオンプラン、支部独自セミナーと商況視察セミナーの開催〕

- ・キャリア・年代別ユニオンプラン：ミドルライフサポート研修(9名)  
フレッシュプラン(10名)、40歳代セミナー(3名)  
新潟静岡合同セカンドプラン(9名)
- ・支部独自セミナー：中国語セミナー(30名)、ボールペン字セミナー(16名)  
札幌商況視察セミナー(6名)

### ●レクリエーション活動

〔メンバー間の一体感を醸成できる活動の推進〕

- ・3月いちご狩りレク(29名)、4月陶芸教室(33名)、6月団結会(81名)
- ・様々なお買場メンバーの参加が見られ、新たなコミュニケーション醸成に繋がった

### ●広報活動

〔リアルタイムな情報発信による組合活動周知と、メンバー接点拡大へ向け広報のデジタル化推進〕

- ・支部ブログ更新(42回) ※2019年8月現在
- ・支部広報紙デジタル配信(2回) ・デジタルサイネージの定期更新
- ・マイメモ発刊2回(2018年11月修正版・2019年5月新年度版)

### ●政治活動

〔政治活動に対するIMGUの考え方を基にした組織内候補者の支援活動〕

- ・組織内候補者の応援はがき支援を実施
- ・VOICE活動を通じて、公民権行使の依頼と組織内候補者の政策共有を実施



メンバーズVOICE



労使協議会



3.11復興支援活動



中国語セミナー



いちご狩りレク



労使共催団結会

## テーマ

## 変化に慣れ、変化を促す。新たな発見が自身と組織の成長へ。

第6期は「変化」と「チャレンジ」をキーワードに、労使一体となって新たな発見と成長のできる組織・風土を創る1年としました。

①業務慣習や既存の考え方など、私たちを取り巻く様々な事象について「変える」トライアルを実行しました。年々非常に速いスピードで変化する社会環境に対し、私たちメンバー自身が変わること慣れ、そこから②「新たな発見と自己成長」のできる職場環境と、個人の成長が組織の成長につながる企業風土構築に取り組みました。

### ●労働福祉活動

- 労使専門委員会での通年協議の実施
  - ・「月給制エルダースタッフの導入」「ステージ C-t⇒C 昇格時の役割成果ランク格付ルール見直し」「社員・メイト社員・フェロー社員の採用賃金引上げ」「社員・メイト社員のアニバーサリー休暇導入」について、春の交渉にて労使合意しました。
  - ・「希望退職支援制度」について、臨時支部大会において満場一致で可決されました。
- 働く環境の整備
  - ・ハラスメント防止委員会を定期開催するとともに、業務時間内でハラスメントセミナーを実施。ハラスメントのない職場環境の整備を推進しました。

### ●VOICE 活動

- テーマ別 VOICE の充実
  - ・「SM・SD VOICE」を新たに実施。メンバー・経営とのパイプ役として互いの現状把握を綿密に行い、より高い頻度でメンバーサポートに取り組みました。

SM・SD VOICE	3回	社員・メイト社員～5年目VOICE	7回
代議員VOICE	4回	ASM VOICE	9回
BL・SBL VOICE	15回	WFV	4回

### ●経営対策活動

- メンバーの声の共有・反映
  - ・今期より、ステアリングコミティを定期開催。各種 VOICE で寄せられた声を基に、各職場の現状を経営と共有。労使一体で新潟三越伊勢丹のリフォーメーションを推進できる風土の構築に努めました。

労使専門委員会	毎週金曜日	ステアリングコミティ	5回
---------	-------	------------	----

### ●教育サポート活動

- 新たな気づきや変化につながるセミナーの実施
  - ・文化的経験値を向上し、お客さまとの接客の中で会話の引き出しを増やすことを目的に阿賀野市の窯元より講師を招き「秋の陶芸教室」を初開催しました。
  - ・心身の健康の棚卸しを目的に、日々の食事と運動の両側面からアプローチを行う「ライザップセミナー」を初開催しました。
  - ・介護セミナーのテーマを「認知症」とし、具体的な症状や周囲のサポートについて学びの機会を設けました。親・お客さま・自身の認知症対策について看護師を招き両店で実施。

秋の陶芸教室参加者	42名	ライザップセミナー参加者	23名
認知症セミナー参加者	46名	Disneyアカデミー参加者	8名

### ●レクリエーション活動

- 支部独自レクの充実
  - ・「アウトドア」「地域文化探求」などのテーマに沿って、メンバー満足度の高いレクリエーションを継続開催。好評だった「BBQレク in ミズベリング」の2日間開催や、「老舗ホテルでのテーブルマナーセミナー」を実施しました。

BBQレク in ミズベリング	144名	イタリア軒テーブルマナーセミナー	34名
-----------------	------	------------------	-----



19.08 臨時支部大会



19.05 WFV



18.11 秋の陶芸教室



18.12 ライザップセミナー



18.09 BBQレク



18.12 テーブルマナーセミナー

## テーマ

## 相手を知り、積極的にコミュニケーションをとる風土作りに取り組みます

2018年度は減収減益の想定のもと、様々な営業施策を実施し、手数料収入などの新たな取り組み、経費削減等の効果もあり、減収にはなりましたが増益を果たすことができました。また、新しい経営陣のもと「日本一働きやすい会社」を目指した働き方改革がスタートしました。組合としても、働き方改革についてメンバーの声を吸い上げる活動を重点的にを行い、会社と共有してきました。メンバーからは、マネージャーの業務負荷軽減や、社内の雰囲気が発言しやすいものになったなどの声もあり、徐々にですが変化がみられます。

### ●ダイバーシティ推進

- ・ダイバーシティ推進の取り組みとして、メンバー同士の違いを知る機会を設ける予定でしたが、働き方改革に伴う活動を重点的に行ったため、次年度での取り組みとしました。
- ・育児勤務者については、メンバーズ VOICE を個別対応で行うなかで、育児や働き方、職場の雰囲気などについてのヒアリングを行いました。

### ●VOICE 活動

- ・テーマ別 VOICE として、BL・SBL 対象の VOICE を行い、他のブロックとの違いや悩みについて共有しました。また、その内容は経営とも共有しました。
- ・ステージ B の人事賃金制度改定についてのテーマ別 VOICE を行い、制度自体や社内の雰囲気など様々なことについて意見を聞くことができました。

### ●経営対策活動

- ・経営陣とのコミュニケーションを図るため、自由に意見交換ができる機会を積極的に設けました。
- ・全社で進める働き方改革の内容については内容を共有し、メンバーがどう捉えているか、どう変わったかなど、現場の状況を会社に伝えました。
- ・経営陣とメンバーの直接対話の場づくりについて計画しましたが、実施には至りませんでした。

### ●労働福祉活動

- ・ステージ B の人事賃金制度を春の交渉で成案化。賃金移行についても労使合意しました。
- ・60歳以降の働き方について、優先順位の高い課題について協議し制度改定を行いました。
- ・新たな働き方として、フレックス勤務のトライアルを4月から後方部門で実施することとしました。
- ・有給休暇の取得状況や労働時間管理などは、労使で状況を確認し、議論を行いました。

### ●教育サポート活動

- ・他支部と共同で、引き続きシニアサポートプランを、また新たに、入社5年目の社員、メイト社員を対象としたセカンドプランを開催しました。
- ・社員、メイト社員、フェロー社員のフレッシュプランは、支部単独で行いました。
- ・健康増進を目的とした RIZAP 健康セミナーを開催しました。

### ●レクリエーション活動

- ・毎年恒例のボウリング大会を10月に実施しました。
- ・少人数でのレクとして、「クリスマスリース教室」「手相占い体験教室とミニ鑑定」を開催しました。

### ●広報活動

- ・掲示板、支部ブログを活動の柱に、デジタルサイネージ含め、毎月の定期更新を行いました。

### ●USR活動

- ・いこいの家への支援活動は、年3回、支援先の行事に参加しました。
- ・愛の募金、平和活動は、多くのおみなさんに参加いただき、愛の募金は74,456円のご支援、折り鶴は1,890羽を広島に送ることができました。



RIZAP セミナー



ボウリング大会



労使協議会



フレッシュプラン



レク「手相占い体験教室とミニ鑑定」

# 名古屋三越支部 第6期(2018年度) 活動報告(案)

## テーマ

## 変化を恐れない、相互理解のあるイキイキと働きやすい風土の構築

我々を取り巻く外部環境変化が激しい中、SAKAE ファッションモールのリモデルが一区切りし、安定的な利益確保に向けた新たなスタートととらえ第6期の活動をスタートしました。メンバーや会社との「対話・ディスカッション」を通じ、既存の形にとらわれない新たな取り組みを推進しました。

### ●VOICE 活動

- ・ 労使通年協議事項やお買場の働き方に関して、テーマ別 VOICE を重点的に開催し、メンバーの声を吸い上げてきました。

### ●労働福祉・経営対策活動

- ・ ベースアップを含んだ「賃金要求」、人事・賃金制度見直しをはじめとした「人に関わる諸制度の改正」や有給休暇取得促進など「働き方の環境作りに向けた取り組み」に関し、会社とディスカッションを中心とした会議体に変更し取り組みました。
- ・ VOICE 活動によって吸い上げたメンバーの声を包み隠さず会社に伝えることによって、現場の状況や思いを経営陣に知ってもらうように努めました。

### ●U S R活動

- ・ 継続活動をしているフードドライブの理解を深めるため、執行委員を中心にフードバンク施設体験学習をおこないました。一連の活動が徐々に浸透し、食品を提供して下さるメンバーも増えてきています。

フードドライブ	年2回実施	広島平和活動折り鶴枚数	6,000羽
中古子ども服回収枚数	175着	エコキャップ回収個数	111,198個
2018年度“冬”愛の募金	60,540円	2019年度“夏”愛の募金	58,216円

### ●教育サポート活動

- ・ 次世代を担う若手社員を中心とした、自身の職場だけにとどまらない知識や視野を広めることを狙いとした、学べる機会を創出しました。

マナベルカフェ	計7回実施。後方部門担当者を中心に自身のお仕事内容の紹介
岡山・倉敷デニムを学ぶツアー	25名参加。ファッション、食、アートなどの領域を肌で体感
ディズニーアカデミー	11名参加。東京ディズニーランドのサービスを体感
セカンドプラン	20名参加。入社5年目の方を対象とした研修
フレッシュプラン	29名参加。新入組員を対象とした研修

### ●レクリエーション活動

- ・ 世代やお買場の垣根なく楽しめるレクリエーションを実施しました。

フットサル大会参加者	26名	星ヶ丘店ボウリング大会参加者	101名
豊川リレーマラソン参加者	34名	労使団結会(仮称)	300名程度

### ●広報活動

- ・ 10年以上継続している広報誌「ボイスタ」を本年も発刊しました。昨年度頂いた意見を反映し、より活用しやすい広報誌を作成しました。

### ●組織政策活動

- ・ 執行部の主体的な組合活動への参画を目的とし、企画段階から携わることができるように努めました。また、労使交渉の進捗に関して都度執行部で議論をすることにより、メンバーの意見を反映することはもちろんのこと、執行部自身の労務知識向上に努めました。

### ●政治活動

- ・ 公民権行使の重要性を伝え、政治への関心に努めました。



支部大会



フードドライブ



マナベルカフェ



岡山・倉敷デニムを学ぶツアー



豊川リレーマラソン

## テーマ

## 一人ひとりの力と声をつなぎ合わせ、変革への一歩を踏み出そう

広島における商環境が市街地・駅周辺・郊外と多様化する中、(株)広島三越も新たな百貨店モデルを目指し、一人ひとりの力を合わせて黒字化に向けて走り出しました。組合は「企業の存続」と「雇用の確保」を常に行動指針とし、メンバー一人ひとりを「人財」として焦点を当て、モチベーションを高めていくことを大切にしてきました。また、第6期は「人財」である一人ひとりの力と声を集約させ、それが変革へ向けた第一歩となるよう、メンバー同士をつなぎ、メンバー・会社の強固な関係性を築く活動を行いました。

### ●労働福祉活動：近年の社会情勢を鑑みた制度の見直し

- ・「育児関連諸制度」と「再雇用制度」を拡充し、「要保護短時間勤務」を制度化しました。
- ・雇用転換制度や選択コース・職種を整理し、社員に「テレワーク規程」を導入することで、多様な働き方の準備を行いました。
- ・毎月のハラスメント防止対策委員会の実施やハラスメント防止啓発を定期的に行いました。
- ・メンバーズ VOICE は、情報発信だけに留めず、メンバーの声の集約を意識して開催しました。
- ・分野別の課題抽出にまで至らず、新たなテーマ別 VOICE を実施できませんでした。

### ●経営対策活動：(株)広島三越の将来について対話できる労使関係の構築

- ・毎月の継続実施ができた「経営懇話会」は、重要な会議体として位置付けています。労使で顔を合わせて対話することで、経営の考え方や組合活動で集まった声の共有を行い、(株)広島三越のための発展的な話し合いを行っています。

### ●ダイバーシティ推進：育児や介護に携わる方々を理解に向けた啓発活動

- ・育児諸制度利用者への「テーマ別 VOICE」の実施で、職場の周囲の理解状況の把握だけでなく、利用者同士の意見交換を行い、安心して働ける環境作りに活かす声を集めました。
- ・以前から要望のあった「介護セミナー」を初開催。介護にまつわる不安の解消や介護と仕事の両立について学ぶことができました。しかし、社内制度の認知の低さは課題と捉えています。

### ●USR活動：執行部、組合員の参画が広がり、活動認知度の向上

- ・初の活動として、西日本豪雨災害ボランティアに延べ8名、支援団体への人的支援に2名で活動を行い、USR活動への認知と理解が広がりました。
- ・折鶴献納 4,200羽、愛の募金 91,400円、エコキャップの回収 9,073個
- ・平和活動として広島・長崎での折鶴献納を継続して実施しました。

### ●教育サポート活動：新たにミドルライフサポートを実施し、様々な年代をサポート

- ・フレッシュプラン、セカンドプラン(中四国3支部合同)、シニアライフサポート(福岡開催に参加)を行い、様々な年代・キャリアの組合員の教育を継続して実施しました。
- ・新たにミドルライフサポート(中四国3支部合同)で実施することで、これまで教育機会の少なかった40歳を対象とした教育を行うことができました。

### ●レクリエーション活動：組合員に会話の場を提供することで、円滑な関係性を創出

- ・カーブ観戦レクリエーションは180名(非組合員を含む)の参加があり、組合員のコミュニケーションツールとして定番になっています。
- ・労使共催サマーパーティを初開催し、53名の組合員が参加、対話の場を創出できました。

### ●広報活動：メンバーのコミュニケーションツールとしてデジタルを活用

- ・情報発信とメンバー間のコミュニケーションの促進として組合HPのブログを適宜更新しました。また、発刊する広報誌やVOICEの議案書には二次元コードを定期的に変更し、メンバーがデジタルを活用して情報を得られるようにしました。

### ●組織政策活動：役員への活動への参画拡大

- ・役員への組合活動への参画は拡大しましたが、役員教育等は実施できず、課題が残りました。



経営懇話会



介護セミナー



豪雨災害ボランティア



3支部合同  
ミドルライフサポート研修



労使共催サマーパーティ

## テーマ

## 組織の壁を越えて、仲間の絆を広げよう

近年は業績が厳しく、激しい環境の変化に対応し、成果をあげていくためにも、メンバー全員が組織の隔たりなど関係なくチャレンジができ、そのチャレンジを応援できる環境を目指して活動を行いました。これまでの活動を継続しながら意識改革を行い、「失敗恐れずにチャレンジできる風土の実現・より風通しの良い職場環境の実現」に向けて推進してきました。

### ●労働福祉活動・経営対策活動

- ・ 年間の所定労働時間短縮を目指し、年間休日数を 2 日増やすことで、月に 9 日の各休が取得できるように制度を整えました。
- ・ 全国的な物価上昇に伴い、全雇用区分においてベースアップを行いました。
- ・ すでに導入されている制度をより利用しやすくなるよう、内容の改善を行いました。(再雇用制度・グループ内継続雇用制度)
- ・ 効率的な働き方の実現に向けて、後方部門にフレックス勤務制度を導入しました。
- ・ 即戦力の人財確保、本人のモチベーション維持やキャリア形成の推進として、中途採用のステージ C を対象に、ステージ BHAP の受験資格を改訂し、柔軟な人事制度になるよう推進しました。

### ●VOICE 活動

- ・ 支部執行委員中心にメンバーズ VOICE を開催し、育児・介護勤務の方でも参加しやすい時間、また昼から夕方にかけて幅広い選択肢を設けることで 74%の出席率となりました。
- ・ サテライトにおいても各店を 2～3 回訪問することで、在籍メンバー全員へ VOICE を実施することができました。
- ・ テーマ別 VOICE として「入社 5 年目 VOICE」を開催しました。セカンドプラン受講後に集まることで、セカンドプランで学んだことを各自がお買場でどのように活かしているか共有する時間の創出、悩みの相談や解決の糸口をつかむキッカケの場となるよう実施しました。

### ●U S R 活動

- ・ 愛の募金活動においては、夏と冬の実施期間中、執行委員から大会代議員まで全ての組合役員による交代制で開店前と閉店後の従業員通用口にて募金活動を行いました。
- ・ エコキャップ活動は継続して行い、2018 年度中に 81kg(約 34,830 個)回収できました。
- ・ 平和活動の折鶴は、約 4000 羽献納しました。
- ・ 支部支援団体の「児童養護施設 讃岐学園」には、TV とシュレッダーを寄付しました。

### ●教育サポート活動

- ・ IMGU のユニオンプランに基づき、フレッシュプランを全雇用形態で実施しました。新卒・中途採用毎に実施し、合計 32 名の方が受講しました。
- ・ 入社 5 年目を対象としたセカンドプランは、継続して広島・松山・高松の三支部合同開催し、今年よりミドルライフサポートも三支部合同で開催しました。(セカンドプラン：10 名  
ミドルライフサポート：6 名)

### ●レクリエーション活動

- ・ 店休日恒例のバスツアーは夏と冬それぞれ実施し、参加者の合計は 144 名となりました。
- ・ スポーツレクとしてはボウリングとフットサルの大会を開催し、ボウリング大会は 48 名、フットサル大会は 36 名の方が参加しました。

### ●広報活動

- ・ M's パスポートの発刊を継続して行いました。



三支部合同ミドルライフサポート



メンバーズ VOICE



愛の募金活動



店休日バスツアー



ボウリング大会

第6期は経営体制も新たになる中で、①会社との対話に重点を置いて取り組みを行ってきました、毎月の経営懇話会だけでなく、労使会議や事務局での MTG の機会を設けスピード感をもって協議を進めました。また②メンバーとのコミュニケーションは3か月に1回のペースで全組合員を対象とした VOICE を開催し直接声を聞く機会を設け、集まった声をもとに会社との協議を行いました。また広報誌の発刊頻度を高める等、組合活動の理解促進に向けた取り組みも強化して行いました。

### ●労働福祉活動：メンバーの声を聞きながら着実な改善を行いました。

- ・より柔軟な働き方ができるように勤務パターン拡充（スライド勤務）を行いました。
- ・人事制度では、育児休職制度の拡充と社員ステージ C の本給制度の改定等を行いました。
- ・働き方改革を推進し、仕組みの改善と意識の改革の両面に取り組みました。

### ●経営対策活動：経営懇話会を中心に営業現況・働き方改革について対話しました。

- ・営業現況では、予算に対する進捗・施策や顧客動向など多面的に確認を行いました。
- ・時間管理・有給取得状況を確認するとともに改善に向けた話し合いを行いました。
- ・労使会議の場を設け、構造改革の進捗について確認・意見交換を行いました。

### ●ダイバーシティ：育児をしている方同士のつながりを作り深める取り組みを行いました。

- ・育児休職者・育児勤務者を対象とした VOICE を開催し、8 名の方が参加しました。
- ・広報誌を活用し、育児・介護に関する会社や共済会の制度等の発信を行いました。
- ・育児サポート百科・介護サポート百科を発刊しました。
- ・介護セミナーは他支部の開催事例の調査を行いました。

### ●U S R 活動：児童養護施設への支援に加え豪雨災害への復興支援に取り組みました。

- ・愛の募金活動年2回を実施、12月に児童養護施設（信望愛の家）への物品寄贈（クリスマスツリー）を行いました。
- ・豪雨災害の緊急募金を実施しました。また連合が開催する豪雨災害の復興支援に3回（計8名）参加しました。
- ・広島平和折り鶴では、本館で働く方を中心に主体的に折り鶴づくりに参加いただき2100羽を送りました。

### ●教育サポート活動：新たにミドルライフサポートや労使共催のセミナーを開催しました。

- ・フレッシュプラン（6名参加）・セカンドプラン（6名参加）・シニアライフサポート（2名参加）を開催しました。新たに中四国合同でミドルライフサポート（40歳時研修）を松山で開催し松山三越からは7名の方が参加しました。
- ・労使共催にてアンガーマネジメントセミナーを開催し68名の方が参加しました。

### ●レクリエーション活動：メンバー間のつながりを強化できる取り組みを行いました。

- ・石鎚登山レクを開催し10名の方が参加しました。
- ・西条ビール工場見学を開催し12名の方が参加しました。
- ・ボウリング大会を開催し48名の方が参加しました。

### ●広報活動：組合活動の理解促進に向けて、広報活動を強化して取り組みました。

- ・広報誌の発刊頻度を高め、月1回程度の発刊を行いました。
- ・支部ブログでは執行部の紹介やイベントの告知などを掲載しました。

### ●組織政策活動：各人の役割と目的・目標を明確にして活動を推進しました。

- ・執行部は、各役割に応じた活動の運営をそれぞれが責任を持って行うことで組合執行部としての意識向上を図りました。また、連合や UA ゼンセンの活動へもそれぞれの役割で積極的に活動するとともに、外部とのつながりを作りました。



労使協議会



ワーキングファミリーVOICE



児童養護施設への物品寄贈



ミドルライフサポート



ビール工場見学レクリエーション

## テーマ

## 可能性を信じて、未来へと進もう ～変革と創造の年～

第6期は、世の中や私たちを取り巻く環境がスピード感をもって変化していく中、社内では、これまでにない規模の構造改革が推進され、わたしたち個人も、これまでの働き方や意識を見直す必要に迫られてきました。このような難しい状況においても、可能性を信じ前進するために、一人ひとりとの対話から得られたメンバーの声を経営に届け、働く環境や処遇の改善につなげることができました。

### ●労働福祉活動：優先度の高い項目の重点協議と、働き方改革推進の両立

- ・ステージ C の人事賃金制度の改定や、メイト社員の確定拠出年金制度導入など、求められる働き方にチャレンジでき、安心して働き続けられる制度に近づけることができました。
- ・働き方については、会社全体での有給休暇取得促進など、より働きやすい職場環境への改善につながりました。また、フレックス勤務の対象者拡大やテレワークの制度導入といった、メンバーに裁量を持たせた柔軟な働き方をスタートさせました。

### ●経営対策活動：チェック能力のレベルアップとパイプ機能の強化

- ・経営懇話会では、定例報告をなくし、情報共有や意見交換を強化しました。双方の主張や疑問を投げあうことで、相互理解が進みました。
- ・組織改正に関する VOICE や久留米店 VOICE を実施し、メンバーの声をコンスタントに経営陣に訴えかけたことで、その声を受けての会社の対応を促すことができました。

### ●ダイバーシティ推進：多様性への理解促進と、各種活動への参画促進

- ・ワーキングファミリーVOICE では、参加者間の情報共有のほか、育児に関する制度の率直な声を拾い、労使協議に反映させました。
- ・一方で、育児以外の「多様性」に対する取り組みについては、組合役員による LGBT セミナーなどの受講程度に留まり、組合員にまで活動の幅を広げることができませんでした。

### ●U S R 活動：九州を元気にする活動、人的支援の活性化

- ・愛の募金の寄贈活動では、九州北部豪雨で被災した東峰村の保育園を訪れ、園児や職員の方々との交流を図ることで、新たな関係を築くことができました。
- ・公募型のボランティア企画を実施しましたが、参加者の拡大には課題を残しました。

### ●教育サポート活動：意欲的な参加を促す教育の場の提供

- ・ライザップ健康セミナー開催により、幅広い年代の新たな顔ぶれの参加が増えました。
- ・これまで実施できていなかった「中途入社者フレッシュプラン」を開催することができました。
- ・若手同士のコミュニケーションを促す場として「ヤングプラン」の開催方法を改善してきました。

### ●レクリエーション活動：満足度・参加率向上に向けた魅力的な企画

- ・一部、これまでのレクリエーションを見直し、新しい企画立案を検討しましたが、次年度への持越しとなりました。
- ・人気の高い「フットサル大会」や、新入社員を中心とした「博多どんたく」は盛り上がりました。

### ●広報活動：広報物のタイムリーな発刊とペーパーレス化

- ・組合活動や労使協議の内容については、定期的にニュースを発行してきました。
- ・ソシエワールド支部などの福岡勤務の他支部メンバーについては、福岡独自の企画や共済会情報などを、ペーパーレスで発信する仕組みに変えました。
- ・新入社員を紹介する広報誌「GANZOU」は、メンバー同士のコミュニケーションツールの一つとして、これまでより早いタイミングで発刊することができました。



労使協議会



岩田屋久留米店新館



岩田屋久留米店新館営業終了



東峰村の保育園訪問



RIZAP 健康セミナー



博多どんたくパレード

## テーマ

## “飛躍的成長”のために

～変わらぬ信念・変える覚悟を持って、邁進する1年に～

- 新会社であるエムアイフーズスタイルが発足した初年度、自社を取り巻く環境変化について全てのメンバーへ正しい情報を共有し、意見の集約と対話をするを目的に様々なテーマを繰り返し設定してきました。
- セーフティネットの拡充「有期契約の無期化」「最低賃金の整備」「雇用年齢の引き上げ」など、安心して働く環境の整備に注力した一年となりました。
- 労使の課題感が強い「働く環境の整備」においては、事業部間・所属間などで取り組みへの認識差が広がっています。

### ●労働福祉活動

- ・働く環境の整備に向けて、定期的なテーマ別 VOICE の開催、また職場巡回時にヒアリングを行い、各所属での課題の吸い上げを行いました。情報の活用に課題を残しました。
- ・通年協議を推進し、雇用年齢の引き上げ、業績を鑑みた賞与要求を実現しました。

### ●VOICE 活動

- ・効果的・効率的な開催に向けて、通常のメンバーズ VOICE の前後に意見集約を目的としたテーマ別 VOICE を開催してまいりました。
- ・引き続き新たなスキームの定着化に向けて取り組みを進めてまいります。

### ●経営対策活動

- ・毎月経営懇話会を実施し、情報は支部広報紙を通じて発信、またメンバーズ VOICE で周知を行うことで、正しい情報をメンバーと共有することが出来ました。
- ・本部組合主催の従業員意識調査を支部でも実施し、各協議に結果を反映させました。

### ●教育サポート活動

- ・課題感を踏まえ新卒3年目研修を新卒入社2年目研修に変更してまいりました。
- ・その他計画の年次教育は実施には至っていないものの、会社が教育強化を進める中で今後の在り方を検討してまいります。

### ●ダイバーシティ活動

- ・新たに育児短時間勤務者対象のテーマ別 VOICE において、「育児」「仕事」を抱えるメンバー自身が個人として大切にしたいことを改めて考える機会を設けてまいりました。
- ・育児だけでなく介護や疾病を抱えるメンバーに対する理解向上に向けて、まずは組合会議体の中で勉強会を行いました。

### ●レクリエーション活動

- ・メンバーニーズを踏まえ、年間3回企画を実施し、申込方法をWEBに切り替えました。
- ・新たな取り組みとしてメンバーが集まれる場の提供(サークル活動)を計画しましたが、実施まで至りませんでした。

### ●USR活動

- ・USR活動への参画に対する意識やハードルの高さの改善に向け、まずは意識醸成を行っていくことを目的とした【総和工場・エフピコ見学ツアー】を実施しました。

### ●組織政策活動

- ・メンバーとのパイプ役となる支部役員のスキル向上を目的とした勉強会を実施しました。

### ●広報活動

- ・組合活動や共済会情報などメンバーにお得な情報の発信として毎週金曜日にブログの更新を行ってまいりましたが、ブログ閲覧者増に向けたアクションには課題を残しました。



【組織：2019年春の交渉】



【経営対策：労使協議会】



【テーマ別：育児休職者 VOICE】



【教育：新卒入社2年目研修】



【レク：有名ホテル・レストラン体験】

# エムアイカード支部 第6期(2018年度) 活動報告(案)

## テーマ

## 変化を日常に！！

～変化する日常を乗り越え、イキイキと躍動できる企業・職場の実現～

第6期は会社に変化していく中で、その変化の波を乗り越えていくこと。またその変化の中でイキイキとやりがいのある、そして安心して働ける環境をより整備することで、皆さんが安心して躍動できる職場・企業にしていきたいと思い、活動をしてきました。

今期は期中に本社移転が決まり、労働条件や柔軟な働き方の導入、移転対応 MV などを行い、皆さんが少しでも安心して前向きに移転できるよう、取り組みを行って来ました。

また、カード会社としての自立元年として、様々な取り組みが行われる中で、VOICE や意識調査でいただいた意見を経営懇話会や労使協議にて課題提起を行いながら、やりがいのある職場環境づくりに向けて取り組みを進めました。

### ●VOICE

- ・通年協議への意見収集やマネジメント、部下育成などの現状把握を行うために、テーマ別 VOICE を開催し、通年協議へのメンバー意見を反映させた
- ・秋に発表された移転対応 VOICE では、収集したメンバー意見を経営懇話会や労使会議で共有することで、少しでも前向きに移転できるように環境整備を行った
- ・本社における MV では、1 回の参加人数が多く意見を収集しづらい環境であったため、アンケートを配布することで、メンバー意見をより把握することが出来た

### ●労働福祉活動

- ・労使通年協議事項に基づき、制度改定の協議を行ったが、労使共通認識を形成できず、次年度への継続協議となったが、働き方改革(フレックスや時短シフトの追加など)に取り組み、働き方の柔軟性向上に繋げた
- ・衛生委員会を通じて、長時間残業・深夜勤務・モバイルワークの勤怠管理等の状況を確認し、改善への取り組みを実施
- ・意識調査アンケート結果からハラスメントの実態を議案書に掲載し、社内への注意喚起や来年度に繋げた

### ●経営対策活動

- ・VOICE やメンバー意見を踏まえ、経営に人事制度への意見や現在の企業風土、職場環境について意見交換を行い、よりメンバー意見の把握を行うと共に、経営の考えをより把握し同じ方向に進めるように取り組みを実施

### ●ダイバーシティ推進

- ・第5期より開始をした WFV は未実施となったが、育児休職者の復職者 VOICE や短時間勤務者へのテーマ別 VOICE を実施し、休職前から復職後までの課題や現在への制度に対する意見をヒアリング実施

### ●USR活動

- ・本部主催の「愛の募金」「折り鶴作成」は、効率的な実施と兼任役員中心に糸通しを行い、確実に実施した。また、支部独自企画は「なかよし会」への支援や、パラスポーツへの理解促進企画として、「ポッチャ」や「ブラインドサッカー」への支援を実施

### ●教育サポート活動

- ・フレッシュプランは新卒社員同士の交流やコミュニケーション、多様な価値観を学ぶことを目的に GW を実施

### ●レクリエーション活動

- ・メンバーの興味・関心の幅を広げる活動としてのフォトジェニックな BBQ や、各職場単位での交流及びコミュニケーションを図るレクとして会社設立 30 周年記念レクを開催し、職場内のコミュニケーションの円滑化

### ●広報活動

- ・支部広報誌『ひまわり』は兼任役員を巻き込んだ記事作成や、誌面とブログの融合を図った
- ・デジタルサイネージの活用やブログの定期的な更新を図り、組合 HP の活性化に寄与
- ・様々な組合発刊物に組合 HP や line@ の告知を行い、情報発信ツールの認知度向上を図った



育児復職者 VOICE



新卒フレッシュプラン(IMS 合同)



古本パワープロジェクト



30周年記念レク



団結会(さよならハイジア)



なかよし会(お祭り支援)

## テーマ

## 働く「笑顔」を力とし、「美しさ・未来」を創る

ソシエ・ワールド支部が発足し、組合活動の基盤づくりに向け役員体制を強化しました。機関会議においても、支部役員が主体的に本音を語り合うことができました。また VOICE 活動を通じて、メンバーとの対話や情報共有の徹底をおこないました。

役員やメンバーから集約した声を労使間で共有し、現状の課題対応をはじめ、働くことにやりがいを持ち、笑顔あふれる職場環境に結びつくよう取り組みました。

### ●労働福祉活動

- ・ 支部として初めての春の交渉を行い、労使協議内容や会社の営業概況、就業ルールなどについてメンバーと共有しました。
- ・ 人事賃金制度については、各事業での仕組みが複雑かつ制度運用にバラつきがあることから、今後の制度改定に向けた課題の整理をおこないました。
- ・ 働く環境の整備においては、コンプライアンス順守の観点から、適正な打刻や休憩・休日・休暇の取得状況を把握しました。また、長時間労働の削減に向けては、時間外の実態と働く環境を確認し、正しいルールの発信を労使共におこないメンバーの意識向上に取り組みました。
- ・ 人に関わる諸制度では、「慶弔災害休暇の新設・拡充」、「ストック有給休暇制度の導入」をおこないました。
- ・ ハラスメント防止に向けては、グループ共通のポスターを掲示しメンバーの意識醸成、啓発の強化に加え、実態の把握を労使にて四半期ごとにおこないました。

### ●経営対策活動

- ・ 経営懇話会を定例開催し、営業戦略および営業概況、また業績向上に向けた施策などについて確認し、支部役員やメンバーと情報共有を図りました。
- ・ 各事業の職場懇話会を定例開催し、事業ごとの抱える課題解決に向けて情報共有をしました。

### ●VOICE 活動

- ・ 組合活動の定着に向けて、メンバーとの対話の中で VOICE の目的や重要性について理解・浸透を図りました。
- ・ メンバーズ VOICE については、事業所が多く、全国に点在をしている中でも、より沢山のメンバーが参加できるように開催日時の工夫をおこないました。また、情報共有の為にデジタルツールを活用しました。

### ●教育サポート活動

- ・ 新入組合員を対象にフレッシュプランを開催し「組合の活動」、「共済会の制度」などの説明をおこない、理解を深めるとともに組合活動への参画や共済会制度の利用を促しました。
- ・ 支部活動の活性化に向けて、支部役員に対して「人事制度の勉強会」、「アンガーマネジメントセミナー」などをおこないました。

### ●USR 活動

- ・ 愛の募金としては、12月と6月に本社で募金箱を設置し、メンバーへ呼びかけ募金をおこないました。
- ・ 石巻ボランティアにスタッフとして参加し、支部内での参加者拡大に向けて、機関会議にて活動内容の共有を行いました。
- ・ 広島平和祈念活動においては、支部役員をはじめとしたメンバーが折り鶴の作成に参画しました。また、支部役員が IMGU の代表として献納を行い広島の現状と献納活動の共有を機関会議にておこないました。

### ●レクリエーション活動

- ・ 職場親睦会補助制度については、広報での告知に加え、申請ルール、受理方法について円滑な体制づくりに取り組み、947名(ソシエ・ワールド支部メンバーの57.4%)の申請がありました。

### ●広報活動

- ・ メンバーに、より組合活動を知ってもらうために組合 HP の支部ブログを定期的に更新しました。また、コミュニケーションの活性化を目的として、支部役員による「ブログリレー」に取り組みました。
- ・ 広報紙「美々っ」を発刊し、「組合の活動」、「共済会制度のお得情報」などについて情報発信を行いました。



労働福祉活動(労使協議会)



経営対策活動(経営懇話会)



VOICE 活動(メンバーズ VOICE)



教育サポート活動(フレッシュプラン)



USR 活動(折り鶴制作)



広報活動(支部ブログ)

## テーマ

## 話そう 繋ごう そして変わろう

- ・ 第6期では、IMPD 支部 BM 事業部の会社分割及び事業承継に伴う対応として、全メンバー対象の VOICE を開催し、情報の発信や意見の吸い上げをおこないました。
- ・ スカイクを活用したフォロー-VOICE や地域役員との共有については、デジタル環境が整わなかったことから実施に至りませんでした。

### 関連 I 共通

#### ●労働福祉活動

- ・ ハラスメント対策としては、啓発用リーフレットのデータを配信しました。

#### ●ダイバーシティ推進

- ・ 育児勤務者を対象に、働き方や制度活用など、状況のヒアリングをおこないました。

### IMBS・IMPD

#### ●労働福祉活動

- ・ 意識調査の結果は、2019 年度春の交渉議案書の中でメンバーと共有し、労使間でも統計から見える課題を確認しました。

#### ●ダイバーシティ推進

- ・ 育児関連諸制度の更なる理解や周知に向けて、執行委員・執行評議員を対象に、育児関連諸制度の勉強会を開催し知識を深めました。

### IMBS

#### ●労働福祉活動

- ・ ワークライフバランスの向上を目的に、年間休日数を4日拡大しました。

#### ●レクリエーション活動

- ・ 首都圏企画のレクリエーションとして、ホテルランチレクを実施しましたが、参加者が想定より少ないなど今後の在り方に課題を残しました。(参加人数：14人)

#### ●広報活動

- ・ ユニオンレターは、1月より紙での発刊から HP (ホームページ) への投稿に切り替えをおこないましたが、閲覧数拡大については課題を残しました。

### IMPD

#### ●労働福祉活動

- ・ 時間外の結果に応じて、対象者と状況を確認する面談を予定していましたが、BM 事業部の対応を優先したことにより、実施をすることができませんでした。

#### ●経営対策活動

- ・ BM 事業部の事業承継に関する VOICE を、2018年9月～2019年2月にかけて、計5回開催し、メンバーの声を経営懇話会で伝えました。また、専門協議会では、メンバーの声をともに協議をおこないました。

#### ●レクリエーション活動

- ・ 「ピアガーデンレク」を、日本橋三越屋上で開催しました。(参加人数：家族含めて56人)

#### ●広報活動

- ・ BM 事業部に関する労使協議の状況については、都度、臨時の広報紙を通して発信をおこないました。

#### ●組織政策活動

- ・ 執行委員会・執行評議員会では、BM 事業部に関する組合見解や労務対応について、活発な議論のもと、審議決定をおこないました。

### IMRE

#### ●労働福祉活動

- ・ 社員の人事賃金制度について、本給体系の見直しや評価による賞与体系の見直しなど、やりがい働きの向上を目的とした制度改定をおこないました。

#### ●広報活動

- ・ 経営懇話会報告・組合活動・共済制度の案内などの周知を目的として、4月以降は毎月1回、分会広報紙の発刊をおこないました。

#### ●組織政策活動

- ・ 職場委員会については、VOICE 開催前に事前の内容の確認や意見交換を目的として開催をおこなったものの、目標としていた定期的な開催には至りませんでした。



関連 I 新卒対象合同フレッシュプラン



関連 I 折鶴の取り組み

(写真は IMPD 執行評議員会で実施した折鶴の糸通し)



IMBS ホテルランチレク



IMPD ピアガーデンレク



IMRE 総会

## テーマ 未来を見据え、一人ひとりがいきいきと働ける職場環境をつないでいこう

第6期は、メンバー・組合役員・会社間の一体感の醸成に向けて各支部・分会メンバーによる主体的な活動を進め、特にレクリエーション活動や教育活動においてメンバー参加を推進し、各活動により多くの方に参加いただくことができました。また、労働福祉分野では各社人事賃金制度の課題への対応をおこないましたが、引き続き課題への対応が必要です。そして、適正な労働時間管理の取組みについては引き続き適正な時間管理推進のための取組みをおこなう必要があります。

●**労働福祉活動**：働き方の見直しについては、一部支部・分会で所定労働時間短縮をおこないました。また、各所の状況を把握や課題の解決に取組む一方で、各社一部の所属で長時間労働が偏った形で発生しています、引き続き組織体制の見直しや業務改善、労働時間管理の改善等を通じて解決に向けて取組みを推進します。

・無期雇用化後のメイト社員・フェロー社員労働諸条件の整備を推進し、休職制度等を中心に処遇の改善につなげました。引き続き、各支部で退職給付制度がメイト社員に導入できるように取組みを推進します。

・19年春において、各支部・分会にてベースアップ、一部支部・分会においては所定労働時間の短縮を実現しつつ、各社制度改定に向けて取組みをおこないました。

●**経営対策活動**：引き続き、各支部・分会において経営懇話会の定例開催をおこないましたが一部支部・分会においては兼任の参画が弱く、現場の温度感を伝えきれない場面がありました。

●**VOICE 活動**：引き続き、参加しやすい環境整備に取組むとともに、ポイントを絞って説明をするなど、運営等を通じてメンバーとの議論の充実化を図りました。一方で VOICE をおこなうことの意義やその目的を理解しきれていないメンバーもあり、VOICE でお預かりした意見がどのように活かされるのか等を組合員教育や広報等を通じてお知らせし、参加の意味合いの共有を徹底します。

●**ダイバーシティ**：各支部において育児のワーキングファミリーVOICE の開催(11月)をおこない、職場の課題や人事制度のあり方の共有等をおこないました。今後は介護等の分野にも確実に目を向けて、ダイバーシティの理解促進に向け取組みます。

●**USR活動**：愛の募金(12・6月)、広島折鶴献納(7月)等の活動や川崎授産学園への取組み(12・5・8月)を継続し、兼任役員参画推進をおこないました。

●**教育サポート活動**：関連統括支部Ⅱ合同で、「気づき」をテーマに初のセカンドプランを開催し、IMH・IMS 延べ47名の方が参加しました。

・また、IMS・IMH 支部合同でタニタセミナーやRIZAPセミナーを開催し、延べ50名以上の方に参加いただき、生活の充実につなげることができたという感想をいただいています。他方、一部メンバーは自身に関わる人事賃金制度を把握し切れていないなど、別の知識面のフォローの必要に関する課題も確認しています。

●**レクリエーション活動**：

・バーベキュー等の定例企画の他、スポーツイベントへの参加等メンバーニーズを踏まえた支部・分会での活動を推進し、さらなる一体感醸成に取組みました。一方で定例企画において、参加者が限定される等、レクの在り方や企画の内容の見直しも検討する必要があると考えています。

●**広報活動**：

・各支部分会において、広報誌発刊をおこないましたが、一部支部・分会においては発信頻度および「発信されていることに気づかれていない」等課題を残しました

●**組織政策活動**：

・組合活動の背景やその意義を理解し、各活動の推進に向けて取り組んできましたが、若手社員を中心にその理解度については課題を残しています。



IMH・IMS セカンドプラン



広島平和記念式典 折鶴献納



スタジオアルタ総会



IMS 新人歓迎 バーベキュー



三越伊勢丹ソレイユクリスマス会

## テーマ 対話によって「キズキ」、進化する

※「キズキ」…物事に気づき、築き上げる。を表現しています。

### レオテックス直轄分会

●**経営対策活動**：2019年2月の構造改革発表以後、HDS・組合本部・支部労使で連携し、メンバーの声を確認しながら、オーダーワイシャツ事業の撤退に関する対応を行いました。また新宿補整加工の業務移管に関する状況確認しつつ継続して慎重に対応を行います。

●**労働福祉活動**：通年協議において長年の課題であった社員退職金給付制度の改定や、シニアスタッフ及びシニアスタッフショート賃金制度改訂、エリア社員月給制の扶養者年齢別最低賃金やベースアップ要求を行いました。働く環境の整備では、年間所定労働時間の短縮に向けて年間休日の増加や1日の労働時間の短縮に取り組みました。

●**現場活動**：メンバーズ VOICE は年3回実施し、テーマ別 VOICE は補整加工全拠点の職場の課題共有や改善策などについて行ったほか、社員の退職金制度改定に関して行いました。

●**教育サポート活動**：フレッシュプランを5月に開催し7名参加。初めてとなるセカンドプランでは執行評議員会にてカリキュラム検討や運営の連携を図り9月に実施(10名参加)

●**USR活動**：愛の募金では、冬夏の2回にわたり東中野本社で実施した結果24,126円タオル18枚、使用済み切手多数のご協力をいただきました。平和を願う折鶴では、3分会から集まった折鶴360羽を執行評議員によって繋げる作業を行い、広島平和記念式典へ計6本の献納となりました。

### 三越伊勢丹ギフト・ソリューションズ直轄分会

●**経営対策活動**：ブランド事業の終了や伊勢丹府中店の閉店にあたり、当該メンバーが事業終了まで不安なく働けるようメンバー一人ひとりの声を基に労使で対応行いました。また8月に発表された構造改革についても同様に労使で慎重に対応を継続していきます。

●**労働福祉活動**：通年協議では、ステージA賃金制度の新設およびステージB賃金制度の改定、メイト社員・フェロースタッフの無期契約の位置づけを踏まえたストック有給休暇制度の導入や拡充、ベースアップ要求を行いました。働く環境の整備では、時間外計上の短縮による状況確認や連休取得ルールによる有給休暇取得促進を図りました。ハラスメント防止では、アンガーマネジメント研修の対象者を広げるとともに、社内コミュニケーションを活性化に取り組み「ハラスメントゼロ」を達成することができました。

●**現場活動**：メンバーズ VOICE 兼分会総会は、年3回(10月・2月・5月)実施し、ステージB賃金制度改定に伴うテーマ別 VOICE を開催しました。

### センチュリー・トレーディングカンパニー直轄分会

●**労働福祉活動**：通年協議では、人に関わる諸制度の整備に向けて人事賃金制度のベースとなる人材像や雇用形態の設定の考え方など制度設計に向け労使で認識を持つことが出来ました。また、ベースアップ要求を行いました。働く環境の整備では、働き方改革委員会の設置や有給休暇の取得促進への取り組み、ハラスメント防止対策では、教宣活動や意識醸成を中心に取り組みました。

●**現場活動**：メンバーズ VOICE 兼分会総会は、年3回(11月・2月・5月)実施し、8月には働く環境をテーマに VOICE を実施しました。

●**教育サポート活動**：フレッシュプランを5月に開催し2名参加。

### 伊勢丹会館直轄分会

●**労働福祉活動**：法改正の対応やグループ制度など伴う内容をベースに労働協約改訂を行いました。



労使協議会  
レオテックス直轄分会



労使協議会  
三越伊勢丹ギフト・ソリューションズ分会



労使協議会  
センチュリー・トレーディング分会



USR 活動  
平和を願う折鶴作成

関連グループ統括支部Ⅳ 現三越伊勢丹ニコウトラベル直轄分会では、2019年4月会社統合に向け協議を進め、新会社人事賃金制度全般について成案化につなげました。またコミュニケーション向上を目的とした広報を発刊に着手し、一体感醸成に向けた取り組みを進めました。三越伊勢丹通信販売直轄分会においては、2019年3月営業終了に向け、労務対応案に基づいた進捗の確認と併せて、営業面における課題について、メンバーが安心して働くことができるよう、協議を重ねました。

### 【三越伊勢丹ニコウトラベル直轄分会】

#### ○労働福祉活動

■2019年4月三越伊勢丹旅行・ニコウトラベル・ニコウ企画3社の会社統合を目指し、人事制度統合案について協議しました。メンバーとの対話を繰り返し行いながら、雇用形態・本給・賞与・退職給付制度・働くルールなど諸制度について成案化につなげました。また2019年度に入り、持越しとなっていた昇格・転換要件について組合機関会議にて審議決定するとともに新会社の働く環境の整備については、最重要課題と認識し、業務改善についてのテーマ別VOICEやミーティングを開催するなど、取り組みをスタートさせました。

#### ○経営対策活動

■経営懇話会を毎月開催し営業概況について確認しました。特に2018年11月には統合会社方針について確認しました。

#### ○VOICE活動

■メンバーズVOICE以外にテーマ別VOICEを開催することで、制度理解促進および闊達な意見交換につながりました。(テーマ別VOICE:3月社員本給移行について、6月働き方について)

#### ○広報活動

■一体感醸成・コミュニケーション向上を目的として、三越伊勢丹ニコウトラベルで働くメンバー全員の顔写真や一言コメントを載せた新会社設立記念広報を発刊しました。

### 【三越伊勢丹通信販売直轄分会】

#### ○労働福祉活動

■2019年3月営業終了に向け、三越伊勢丹通信販売プロパーメンバーを対象とした労務対応の進捗確認やメンバーからいただいた労務面における課題について、都度協議を行い、不安解消につなげました。

#### ○経営対策活動

■経営懇話会を四半期に一度開催し、営業概況および営業終了に向けた営業面の課題について提起し、メンバーが安心して働くことができる環境づくり構築に向け、確認を行いました。

#### ○レクリエーション活動

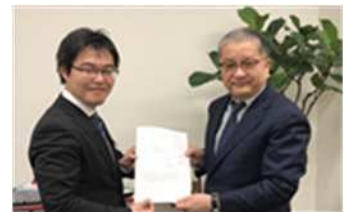
■営業終了間際の3月22日に出向者も含めたJP三越マーチャндаイジングで働く三越伊勢丹グループメンバーを対象に慰労会を開催しました。

### 【三越伊勢丹プラン・ドゥ・シー直轄分会・三越伊勢丹トランジット直轄分会】

#### ○労働福祉活動

■支部として活動におけるあるべき姿について検討を行いました。

### 【三越伊勢丹ニコウトラベル】



2019年度 春の交渉



テーマ別 VOICE



広島千羽鶴活動

### 【三越伊勢丹通信販売】



経営懇話会



慰労会

# 第6期（2018年度）決算報告および剰余金処分（案）

## 1. 2018年度決算の概要

- 2018年度は、運動方針に掲げた「メンバー全員で直接対話を実践し、変革に向けて挑戦しよう」の達成に向けて、活動分野ごとに本部、各支部で活動計画を設定し、運動を推進してきました。
- 組合の会計及び財政運営は、運動方針や活動計画に基づく予算主義（※）の考えに基づいた運営を基本とし、内部監査委員による毎月の会計監査と、外部監査法人による半期ごとの会計士監査による確認を踏まえながら、組合規約及び組合会計基準に則った効率的、効果的な経費の活用と、「資産運用ガイドライン」に基づく効果的且つ適切な資産管理の2点に注力した運営を行っています。
- そのような中、2018年度は組織運営に連動した組合会計基準や財政運営面の見直しを行うとともに、会計システムの入替・導入、データ管理強化のためのインフラ整備など、会計業務の効率化や管理強化への投資を行ってきました。
- 一方、将来の組合財政健全化に向けて、財政中期計画を策定するとともに、資産運用ガイドラインの見直しにも着手してきました（※財政中期計画の概要は第7期予算案にて記載）。
- 結果として、財政収支は収入が組合会計全体（愛の募金を除く）ではほぼ計画通りに推移し、約9億4,000万円（予算比99.6%、前年比100.5%）、支出は約10億3,900万円（予算比97.4%、前年比106.2%）となりました（予算執行率・前年+3.6%）。

※組合会計の予算主義について



<2018年度決算数値（全体）>

単位：千円

	一般会計		闘争会計	
	予算	実績	予算	実績
収入	944,400	940,082	210	208
支出	1,067,000	1,038,776	10	0
収支	-123,000	-98,694	200	208

単位：千円

全会計合計（愛の募金会計除く）				
	予算	実績	予算差	予算比
収入	944,210	940,290	-3,920	99.6%
支出	1,067,010	1,038,776	-28,234	97.4%
収支	-122,800	-98,486	24,314	-

単位：千円

愛の募金会計				
	予算	実績	予算差	予算比
収入	4,010	4,673	663	116.5%
支出	4,260	5,465	1,205	128.3%
差額	-250	-793	-543	-

※金額は各会計の繰越金、繰入金、剰余金を除いた額

## 2. 一般会計の決算のポイント

### 1) 収入

#### ①組合費収入

- ・ 2018 年 4 月にソシエ・ワールドの組合員化を行った影響により、年度中の平均組合員数が昨年度より大幅に増加すると想定していましたが、グループ内における採用抑制や構造改革の影響により微増（期中平均 22,257 名・前年比 100.9%）に留まり、本給における組合員拠出金が予算を下回った結果、約 8 億 3,600 万円（予算比 97.9%・前年比 101.2%）となりました。

#### ②施設利用料収入

- ・ 2018 年 10 月よりスタートしたハワイ condominium の共済会員への貸出件数が順調に推移したこと、一般顧客への貸出日数が想定より上回ったことなどが影響し、約 1,800 万円（予算比 200.8%・前年比 154.3%）となりました。

#### ③受取利息・受取配当金

- ・ 受取利息は、金融市場の動向を受け、保有していた為替ヘッジ付投資信託の利息収入は減少しましたが、資産運用ガイドラインに基づき、新たに 2 本のドル建債券（東京都・三井住友フィナンシャルグループ）を購入した結果、全体では約 4,100 万円（予算比 105.6%・前年比 94.5%）となりました。
- ・ 受取配当金は、保有している三越伊勢丹 H D S 株およびトヨタ AA 株等の配当が想定通り行なわれた結果、約 4,200 万円（予算比 102.1%・前年比 101.8%）となりました。

#### ④その他収入

- ・ 予算化していなかったリーマンブラザーズ社債返還金が約 90 万円計上されたことなどにより、雑収入は約 250 万円（予算比 246.1%・前年比 19.4%）となりました。なお、リーマンブラザーズ社債返還金は 2008 年に約 1 億円で購入した同社事業債の債務不履行以降、順次返還されているものであり、今年度の返還により累積の返還金は購入金額の 45.5%（ドルベース）となっています。

### 2) 支出

#### ①事業費

- ・ 事業費は、約 1 億 5,500 万円（予算比 74.4%・前年比 96.9%）となり、予算内の支出となりました。主な内訳として、本部活動費は約 1,600 万円（予算比 48.3%・前年比 71.8%）、本部教育費は約 2,500 万円（予算比 80.1%・前年比 89.7%）、支部活動費は約 9,100 万円（予算比 75.6%・前年比 100.2%）となっています。
- ・ 事業費で予備費を多く流用した主な科目の理由は以下の通りです。

- 本部会議交通費・旅費（約+90 万円）

定例開催の本部執行委員会に加えて、賞罰・構造改革に伴う労務対応案件への対応のために臨時的な本部執行委員会を年度内で数回行ったため

#### ②事務費

- ・ 事務費は約 5 億 3,800 万円（予算比 97.3%、前年比 109.2%）となり、予算内の支出となりました。主な内訳として、人件費は約 4 億 9,100 万円（予算比 99.6%、前年比 107.2%）、物件費は約 4,700 万円（予算比 78.5%、前年比 135.1%）となりました。
- ・ 事務費で予備費を多く流用した主な科目の理由は以下の通りです。

- 給料・社会保険料（2 科目計：約+1,040 万円）

ベースアップの影響及び想定よりも専従・専任者人数が増えたため

- 福利厚生費（約+85 万円）

組合任期期間見直しに伴い、専従・専任者の組合活動補償保険の更改月見直し（6 月⇒10 月）を実施し、16 か月分の保険料を計上したため

- 通信費（約+120 万円）

サーバー入替により 11 月より運行管理料が毎月発生したため（毎月約 33 万円）

- リース料（約+120 万円）

業務効率化および管理強化のため、期中に全本支部事務所でパソコンの入替を行ったため

### ③その他（独立支援金・雑損失）

・独立支援金及び雑損失は予備費を流用しました。主な理由は以下の通りです。

#### ●独立支援金

予算策定時には想定していなかった、三越伊勢丹プロパティ・デザインのビルマネジメント事業継承による新労組発足に伴い、IMGU より 1,500 万円を独立支援金として新労組（三越伊勢丹アトムファシリティーズ BM 労働組合）へ拠出したため

#### ●雑損失

期中平均レート 111.14 円に対し、期末（6/28 時点）の為替レートが 107.79 円であったため、保有している外貨建金融商品（預金・債券・投資信託）の為替差損を計上したため

## 3. 特別会計のポイント

### 1) 闘争特別会計

・闘争特別会計は、現在の資産規模（約 7 億円）を維持しながら保有している資産を運用しており、金銭信託の受取利息はほぼ想定通りに推移しました（予算比 99.0%）。

### 2) 愛の募金特別会計

・「平成 30 年 7 月西日本豪雨」時に緊急募金を実施した結果、愛の募金収入は大きく上回りました（予算比 116.8%・前年比 152.4%）。また、第 5 期に利用時の考え方を整理した「災害支援積立金」について、今年度実際に利用するケースが発生したため、戻入収入として計上しました。

・国内外の自然災害増加に伴い、日本赤十字社・上部団体へ義援金、救援金等の支援、及び被災したグループ内従業員への直接見舞金支給を行った結果、前年を上回る実績となったため予備費を流用しました。尚、緊急募金を実施しなかった北海道胆振東部地震に対しては、「災害支援積立金」を利用し、グループ内の被災された従業員の方への支援を行いました。

## 4. 労働組合資産の主なポイント

- ・2018 年度末時点の総資産額は約 52 億 9,700 万円（前年比 98.2%）となり、前年に対して約 9,900 万円減少しました。
- ・闘争特別会計の資産は約 7 億 2,000 万円、全組合員の給与に換算すると（補償日数）約 4.4 日となっています。

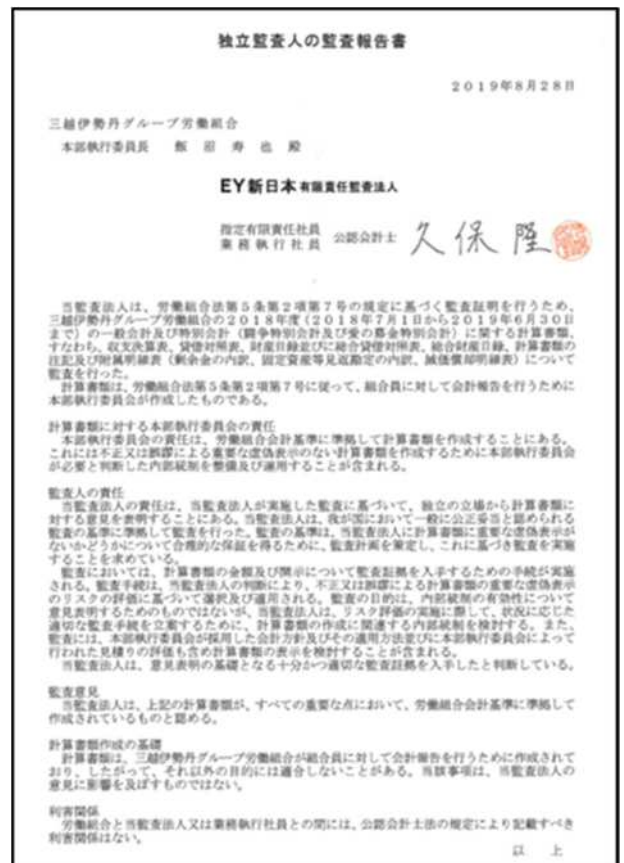
## 5. 監査報告

- ・各会計は、毎月、監査委員による定例の内部監査を実施しました。また、中間および年度決算時において、「EY 新日本有限責任監査法人」による監査を受け、決算資料は正当に表示されており、適正な会計処理が行われていることが確認されました。

## 6. 剰余金処分（案）

2018 年度における下記の剰余金を各々次年度へ繰り越します。

一般会計	4,390,979,102 円
闘争特別会計	720,468,120 円
愛の募金特別会計	5,552,169 円



## 2018年度 三越伊勢丹グループ労働組合 一般会計

### 収支決算表 (2018年7月1日～2019年6月30日)

(収入の部)

(単位:円)

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.	経常収入		943,000,000	937,620,696	5,379,304	101.6%	99.4%
	1.	組合費	854,000,000	836,487,267	17,512,733	101.2%	97.9%
		1.組合員拠出金(本給)	720,000,000	702,302,787	17,697,213	101.7%	97.5%
		2.組合員拠出金(賞与)	134,000,000	134,184,480	-184,480	98.9%	100.1%
	2.	施設利用料収入	9,000,000	18,074,449	-9,074,449	154.3%	200.8%
		1.メンバー利用料	4,000,000	4,998,136	-998,136	-	125.0%
		2.ハワイ現地利用料	5,000,000	13,076,313	-8,076,313	111.6%	261.5%
	3.	受取利息	39,000,000	41,199,678	-2,199,678	94.5%	105.6%
		1.受取利息	38,800,000	35,179,855	3,620,145	80.7%	90.7%
		2.受取利息(外貨)	200,000	6,019,823	-5,819,823	-	3009.9%
	4.	受取配当金	41,000,000	41,859,302	-859,302	101.8%	102.1%
		1.HDS株受取配当金	38,800,000	38,738,292	61,708	94.2%	99.8%
		2.その他受取配当金	2,200,000	3,121,010	-921,010	-	141.9%
2.	臨時収入		1,000,000	2,461,208	-1,461,208	19.4%	246.1%
	1.	雑収入	1,000,000	2,461,208	-1,461,208	19.4%	246.1%
		1.雑収入	1,000,000	2,461,208	-1,461,208	19.4%	246.1%
3.	前年度繰越金		4,489,673,143	4,489,673,143	0	100.1%	100.0%
	1.	前年度繰越金	4,489,673,143	4,489,673,143	0	100.1%	100.0%
		1.前年度繰越金	4,489,673,143	4,489,673,143	0	100.1%	100.0%
		合計	5,433,673,143	5,429,755,047	3,918,096	99.9%	99.9%

(支出の部)

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.	事業費		208,282,411	154,891,683	53,390,728	96.9%	74.4%
	1.	本部活動費	32,582,554	15,742,501	16,840,053	71.8%	48.3%
		1.書記局費	5,000,000	2,737,891	2,262,109	188.1%	54.8%
		2.労働福祉対策費	5,500,000	956,111	4,543,889	41.9%	17.4%
		3.組織対策費	182,554	182,554	0	7.3%	100.0%
		4.経営対策費	4,000,000	2,522,579	1,477,421	443.9%	63.1%
		5.広報費	8,000,000	2,677,830	5,322,170	40.4%	33.5%
		6.選挙管理費	200,000	19,877	180,123	58.6%	9.9%
		7.レクリエーション費	200,000	194,757	5,243	6027.8%	97.4%
		8.USR活動費	7,000,000	4,485,955	2,514,045	56.6%	64.1%
		9.ダイバーシティ推進費	2,500,000	1,964,947	535,053	374.3%	78.6%
	2.	本部教育費	31,063,001	24,895,457	6,167,544	89.7%	80.1%
		1.組合員教育費	11,000,000	6,297,946	4,702,054	90.1%	57.3%
		2.能力開発費	11,500,000	10,034,510	1,465,490	106.5%	87.3%
		3.役員教育費	8,563,001	8,563,001	0	75.4%	100.0%
	3.	本部渉外費	2,525,610	1,664,410	861,200	94.1%	65.9%
		1.応接交際費	525,610	525,610	0	266.1%	100.0%
		2.会費	2,000,000	1,138,800	861,200	72.5%	56.9%
	4.	本部会議交通費	21,991,435	21,829,495	161,940	122.5%	99.3%
		1.本部会議費	2,500,000	2,338,060	161,940	124.1%	93.5%
		2.本部会議交通費・旅費	19,491,435	19,491,435	0	122.3%	100.0%
	5.	支部活動費	120,119,811	90,759,820	29,359,991	100.2%	75.6%
		1.三越伊勢丹支部活動費	36,700,000	29,028,240	7,671,760	99.1%	79.1%
		2.北海道統括支部活動費	13,200,000	11,841,350	1,358,650	114.2%	89.7%
		3.仙台三越支部活動費	3,700,000	2,740,366	959,634	101.1%	74.1%
		4.新潟三越伊勢丹支部活動費	6,300,000	6,019,695	280,305	107.4%	95.6%
		5.静岡伊勢丹支部活動費	1,400,000	1,053,317	346,683	71.9%	75.2%
		6.名古屋三越支部活動費	6,700,000	5,434,754	1,265,246	88.7%	81.1%
		7.広島三越支部活動費	1,919,811	1,919,811	0	218.5%	100.0%
		8.高松三越支部活動費	2,100,000	1,482,785	617,215	94.6%	70.6%
		9.松山三越支部活動費	2,500,000	1,258,302	1,241,698	62.8%	50.3%
		10.岩田屋三越支部活動費	8,600,000	3,368,902	5,231,098	78.6%	39.2%
		11.エムアイフーズスタイル支部活動費	9,000,000	5,205,708	3,794,292	56.3%	57.8%
		12.エムアイカード支部活動費	5,000,000	4,162,187	837,813	113.9%	83.2%
		13.ソシエ・ワールド支部活動費	3,000,000	2,203,115	796,885	-	73.4%
		14.関連グループ統括支部Ⅰ活動費	9,100,000	7,626,635	1,473,365	118.3%	83.8%
		15.関連グループ統括支部Ⅱ活動費	7,100,000	4,373,495	2,726,505	106.9%	61.6%
		16.関連グループ統括支部Ⅲ活動費	2,600,000	2,125,463	474,537	95.9%	81.7%
		17.関連グループ統括支部Ⅳ活動費	1,200,000	915,695	284,305	141.6%	76.3%

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
2.	事務費		552,933,745	538,090,631	14,843,114	109.2%	97.3%
	1.	人件費	493,364,758	491,313,199	2,051,559	107.2%	99.6%
		1.給料	297,164,423	297,164,423	0	110.3%	100.0%
		2.時間外・深夜業手当	50,000	0	50,000	-	0.0%
		3.休日手当	7,500,000	6,906,000	594,000	95.8%	92.1%
		4.職務・行動手当	78,000,000	77,042,000	958,000	99.3%	98.8%
		5.賞与	58,000,000	57,570,021	429,979	102.3%	99.3%
		6.共済会費	50,000	30,420	19,580	100.0%	60.8%
		7.社会保険料	49,246,209	49,246,209	0	108.5%	100.0%
		8.福利厚生費	3,354,126	3,354,126	0	144.5%	100.0%
	2.	物件費	59,568,987	46,777,432	12,791,555	135.1%	78.5%
		1.通信費	6,686,101	6,686,101	0	215.5%	100.0%
		2.消耗品費	3,500,000	2,899,296	600,704	115.6%	82.8%
		3.リース料	7,226,086	7,226,086	0	124.5%	100.0%
		4.建物及び建物付随設備購入費	1,000,000	0	1,000,000	0.0%	0.0%
		5.什器備品購入費	14,000,000	7,266,996	6,733,004	1935.2%	51.9%
		6.水道光熱費	264,262	264,262	0	105.6%	100.0%
		7.印刷費	10,000,000	8,272,860	1,727,140	89.2%	82.7%
		8.図書新聞費	3,000,000	2,882,733	117,267	104.5%	96.1%
		9.ネットワークシステム関連費	5,000,000	3,541,971	1,458,029	147.6%	70.8%
		10.修繕・営繕費	500,000	114,480	385,520	13.1%	22.9%
		11.契約料	6,000,000	5,614,013	385,987	96.7%	93.6%
		12.支払手数料	142,005	142,005	0	295.8%	100.0%
		13.振込手数料	2,000,000	1,708,536	291,464	-	85.4%
		14.租税公課	150,533	150,533	0	186.6%	100.0%
		15.雑費	100,000	7,560	92,440	0.7%	7.6%
3.	リゾート施設関連費		17,150,000	17,052,210	97,790	59.6%	99.4%
	1.	国内リゾート施設関連費	150,000	73,000	77,000	50.0%	48.7%
		1.国内施設関連費	150,000	73,000	77,000	50.0%	48.7%
	2.	海外リゾート施設関連費	17,000,000	16,979,210	20,790	59.7%	99.9%
		1.海外施設関連費	17,000,000	16,979,210	20,790	59.7%	99.9%
4.	上部団体費		122,000,000	120,995,200	1,004,800	95.2%	99.2%
	1.	上部団体費	122,000,000	120,995,200	1,004,800	95.2%	99.2%
		1.UAゼン拠出金	122,000,000	120,995,200	1,004,800	95.2%	99.2%
5.	共済会費		182,000,000	175,592,281	6,407,719	108.4%	96.5%
	1.	共済会費	182,000,000	175,592,281	6,407,719	108.4%	96.5%
		1.共済会拠出金	88,000,000	84,981,501	3,018,499	106.7%	96.6%
		2.医療共済補助金	94,000,000	90,610,780	3,389,220	109.9%	96.4%
6.	独立組織関連費		15,000,000	15,000,000	0	-	100.0%
	1.	独立支援金	15,000,000	15,000,000	0	-	100.0%
		1.独立支援金	15,000,000	15,000,000	0	-	100.0%
7.	雑損失		17,153,940	17,153,940	0	-	100.0%
	1.	雑損失	17,153,940	17,153,940	0	-	100.0%
		1.雑損失	17,153,940	17,153,940	0	-	100.0%
8.	予備費		4,319,153,047		4,319,153,047	-	-
			(47,520,096)				
			4,319,153,047		4,319,153,047	-	-
9.	剰余金			4,390,979,102	-4,390,979,102	97.8%	-
	1.	剰余金		4,390,979,102	-4,390,979,102	97.8%	-
		1.剰余金		4,390,979,102	-4,390,979,102	97.8%	-
		合計	5,433,673,143	5,429,755,047	3,918,096	99.3%	99.9%

予備費4,366,673,143円から、以下の費目に47,520,096円の流用を行なった。

(単位：円)

費目	改定予算額	当初予算額	予備費流用額
組織対策費	182,554	100,000	82,554
役員教育費	8,563,001	8,500,000	63,001
応接交際費	525,610	250,000	275,610
本部会議交通費・旅費	19,491,435	18,600,000	891,435
広島三越支部活動費	1,919,811	1,700,000	219,811
給料	297,164,423	290,000,000	7,164,423
社会保険料	49,246,209	46,000,000	3,246,209
福利厚生費	3,354,126	2,500,000	854,126
通信費	6,686,101	5,500,000	1,186,101
リース料	7,226,086	6,000,000	1,226,086
水道光熱費	264,262	250,000	14,262
支払手数料	142,005	50,000	92,005
租税公課	150,533	100,000	50,533
独立支援金	15,000,000	0	15,000,000
雑損失	17,153,940	0	17,153,940
予備費流用額合計			47,520,096

2018年度 三越伊勢丹グループ労働組合 一般会計

貸借対照表 (2019年6月30日現在)

(単位:円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
現金	423,116	未払金	10,119,949
預金	561,223,696	預り金	869,156
有価証券	3,835,892,089	長期前受金	4,086,833
未収金	1,759,634	(負債合計)	(15,075,938)
未収収益	2,500,074		
立替金	169,598		
建物および建物付属設備	143,687,784	固定資産等見返勘定	164,119,323
什器備品	9,148,918	剰余金	4,390,979,102
土地	474,900	(正味財産合計)	(4,555,098,425)
ソフトウェア	3,194,554		
出資金	11,500,000		
保証金	200,000		
資産合計	4,570,174,363	負債及び正味財産合計	4,570,174,363

財産目録 (2019年6月30日現在)

(単位:円)

摘要		金額
<b>(資産の部)</b>		
現金		423,116
預金		323,381,518
	三菱UFJ銀行 新宿通支店 普通預金 No 4053581	2,372,964
	三井住友信託銀行 法人営業部 普通預金 No 8665703	25,367,121
	中央労働金庫 新宿支店 普通預金 No 2198894	1,319,092
	新潟県労働金庫 東新潟支店 普通預金 No 1579455	3,192,018
	東海労働金庫 本店 普通預金 No 1775502	1,895,597
	静岡県労働金庫 本店 普通預金 No 2802928	147,846
	北海道労働金庫 本店 普通預金 No 5083411	32,005
	北海道労働金庫 函館支店 普通預金 No 5085481	11,150,957
	九州労働金庫 天神支店 普通預金 No 2888071	1,575,000
	SB I証券 一般口座 No Z39-0331163	25,094,586
	楽天証券 本店 総合取引口座 No 703-864001	63,244,171
(外貨預金)	セントラルパシフィックバンク 本店 当座預金 No 4000132132	2,450,821
(外貨預金)	三井住友信託銀行 法人営業部 普通預金 No 0000003996	100,000,000
(定期預金)	三井住友信託銀行 法人営業部 定期預金 No 8448826024	561,223,696
*預金計		149,460,000
有価証券		100,000,000
	投資信託 ニッセイ日本インカムオープン (Jボンド) 150,000,000口	100,000,000
	投資信託 コーポレートボンドインカム (泰平航路) ヘッジ型 93,567,018口	100,000,000
	投資信託 コーポレートボンドインカム (泰平航路) ノーヘッジ型 88,942,231口	150,000,000
	投資信託 DWSグローバル公益債券 Aコース 140,522,045口	180,000,000
	投資信託 DWSグローバル公益債券 Bコース 154,395,173口	100,000,000
	投資信託 東京海上ニッポン世界債券ヘッジ有り 99,000,099口	160,000,000
	投資信託 東京海上ニッポン世界債券ヘッジ無し 129,646,516口	23,621,306
	投資信託 外貨建MMF (USDドル) \$219,141.91	150,000,000
	投資信託 S M A M米国国債7-10年型ファンド (ヘッジあり) 15,000口	150,000,000
	投資信託 S M A M米国国債5-10年型ファンド (ヘッジあり) 15,000口	150,000,000
	投資信託 欧州国債スマートセレクト (ヘッジあり) 150,000,000口	100,000,000
	投資信託 S M A M世界高格付国債SW型ファンド (ヘッジあり) 10,000口	1,000
	円建外債 リーマンブラザーズホールディングスインク円貨社債 100,000,000円	153,368,785
	ドル建債 東京都債 \$1,400,000.00	141,713,668
	ドル建債 三井住友フィナンシャルグループ社債 \$1,280,000.00	105,980,000
	種類株式 トヨタ自動車AA種類株 10,000株	1,921,747,330
	(株) 三越伊勢丹ホールディングス株式 3,228,191株	3,835,892,089
*有価証券計		

未収金		1,759,634
未収収益		2,500,074
立替金		169,598
建物および建物付属設備	リゾート施設 (ハワイオフ島ワイキキビーチタワー2504) リゾート施設 (ハワイオフ島ワイキキビーチタワー2701) 本部組合事務所 由布院クラブ	47,443,224 94,281,232 1,286,350 676,978
*建物および建物付属設備計		143,687,784
什器備品	リゾート施設 什器備品 (ハワイオフ島ワイキキビーチタワー2701・2504) 本部組合事務所 什器備品 支部組合事務所 什器備品	4,270,249 4,562,044 316,625
*什器備品計		9,148,918
土地		
*土地計	由布院クラブ	474,900
ソフトウェア	会計ソフト パワフル会計 精算管理システム	647,136 2,547,418
*ソフトウェア計		3,194,554
出資金	中央労働金庫 新宿支店 新潟県労働金庫 東新潟支店 静岡県労働金庫 本店 九州労働金庫 天神支店 北海道労働金庫 本店 北海道労働金庫 函館支店 東海労働金庫 本店	1,110,000 600,000 659,000 4,003,000 400,000 100,000 4,628,000
*出資金計		11,500,000
保証金	由布院クラブ	200,000
資産合計		4,570,174,363
(負債の部)		
未払金		10,119,949
預り金		869,156
長期前受金		4,086,833
負債合計		15,075,938
(正味財産の部)		
固定資産等見返勘定		164,119,323
剰余金		4,390,979,102
正味財産合計		4,555,098,425

＜重要な会計方針＞

1. 資金の範囲には、現金・預金・有価証券・未収金・未収収益・前払金・仮払金・立替金・未払金・預り金を含めている。
2. 有価証券の評価は移動平均法に基づく原価法による。なお、取得価額と債券金額との差額が金利の調整と認められるものについては、償却原価法を採用している。
3. 有形固定資産については、定額法による減価償却を実施している。

剰余金の内訳

(単位：円)

勘定科目	期首残高	増加	減少	2019/6/30現在
現金	274,412	1,656,714	1,508,010	423,116
預金	649,800,685	1,935,378,978	2,023,955,967	561,223,696
有価証券	3,838,383,528	424,985,670	427,477,109	3,835,892,089
未収金	1,769,844	3,268,780	3,278,990	1,759,634
未収収益	400	5,349,414	2,849,740	2,500,074
前払金	2,467,570	0	2,467,570	0
仮払金	0	1,006,314	1,006,314	0
立替金	58,189	23,683,203	23,571,794	169,598
小計	4,492,754,628	2,395,329,073	2,486,115,494	4,401,968,207
未払金	2,933,034	74,429,536	67,242,621	10,119,949
預り金	148,451	10,744,091	10,023,386	869,156
小計	3,081,485	85,173,627	77,266,007	10,989,105
差引残高	4,489,673,143	2,310,155,446	2,408,849,487	4,390,979,102

固定資産等見返勘定の内訳

(単位：円)

勘定科目	期首残高	増加	減少	2019/6/30現在
建物および建物付属設備	156,586,876	0	12,899,092	143,687,784
什器備品・ソフトウェア	7,329,981	7,266,996	2,253,505	12,343,472
土地	474,900	0	0	474,900
出資金	11,500,000	0	0	11,500,000
保証金	200,000	0	0	200,000
合計	176,091,757	7,266,996	15,152,597	168,206,156
長期前受金	4,312,833	0	226,000	4,086,833
合計	4,312,833	0	226,000	4,086,833
固定資産等見返勘定最終合計				164,119,323

減価償却明細表

(単位：円)

資産の種類	取得価額	当期償却額	当期除却額	償却額累計	2019/6/30現在
建物および建物付属設備	401,616,768	12,899,092	0	257,928,984	143,687,784
什器備品・ソフトウェア等	13,405,642	2,253,504	1	1,062,170	12,343,472
合計	415,022,410	15,152,596	1	258,991,154	156,031,256

## 2018年度 三越伊勢丹グループ労働組合 闘争特別会計

### 収支決算表（2018年7月1日～2019年6月30日）

（収入の部）

（単位：円）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.	経常収入		210,000	207,901	2,099	85.0%	99.0%
	1.	受取利息	210,000	207,901	2,099	85.0%	99.0%
		1. 受取利息	210,000	207,901	2,099	85.0%	99.0%
2.	前年度繰越金		720,260,219	720,260,219	0	100.0%	100.0%
	1.	前年度繰越金	720,260,219	720,260,219	0	100.0%	100.0%
		1.前年度繰越金	720,260,219	720,260,219	0	100.0%	100.0%
		合 計	720,470,219	720,468,120	2,099	100.0%	100.0%

（支出の部）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.	事業費		10,000	0	10,000	0.0%	0.0%
	1.	雑費	10,000	0	10,000	-	0.0%
		1.雑費	10,000	0	10,000	-	0.0%
2.	予備費		720,460,219		720,460,219	-	-
		(0)					
			720,460,219		720,460,219	-	-
3.	剰余金			720,468,120	-720,468,120	100.0%	-
	1.	剰余金		720,468,120	-720,468,120	100.0%	-
		1.剰余金		720,468,120	-720,468,120	100.0%	-
		合 計	720,470,219	720,468,120	2,099	100.0%	100.0%

## 2018年度 三越伊勢丹グループ労働組合 闘争特別会計

貸借対照表 (2019年6月30日現在)

(単位：円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
預 金	20,438,720	(負債合計)	(0)
有 価 証 券	700,000,000	剰 余 金	720,468,120
未 収 収 益	29,400	(正味財産合計)	(720,468,120)
資産合計	720,468,120	負債及び正味財産合計	720,468,120

財産目録 (2019年6月30日現在)

(単位：円)

摘要	金額
<b>(資産の部)</b>	
預 金 三菱UFJ銀行 新宿通支店 普通預金 No 0540510	20,438,720
*預 金 計	20,438,720
有 価 証 券 金銭信託 三井住友信託銀行 J-HOPE (3ヶ月)	400,000,000
金銭信託 三井住友信託銀行 スタートラスト (1ヶ月)	300,000,000
*有価証券計	700,000,000
未 収 収 益	29,400
資産合計	720,468,120
<b>(負債の部)</b>	
負債合計	0
<b>(正味財産の部)</b>	
剰 余 金	720,468,120
正味財産合計	720,468,120

<重要な会計方針>

1. 資金の範囲には、預金・有価証券・未収収益を含めている。
2. 有価証券の評価は移動平均法に基づく原価法による。なお、取得価額と債券金額との差額が金利の調整と認められるものについては、償却原価法を採用している。

剰余金の内訳

(単位：円)

勘定科目	期首残高	増加	減少	2019/6/30現在
預 金	20,238,719	241,541	41,540	20,438,720
有 価 証 券	700,000,000	0	0	700,000,000
未 収 収 益	21,500	50,000	42,100	29,400
小 計	720,260,219	291,541	83,640	720,468,120
残高	720,260,219	291,541	83,640	720,468,120

## 2018年度 三越伊勢丹グループ労働組合 愛の募金特別会計

### 収支決算表（2018年7月1日～2019年6月30日）

#### （収入の部）

（単位：円）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.	経常収入		4,010,000	4,672,627	-662,627	152.4%	116.5%
	1.	愛の募金収入	4,000,000	4,672,549	-672,549	152.4%	116.8%
		1. 愛の募金収入	4,000,000	4,672,549	-672,549	152.4%	116.8%
	2.	受取利息	10,000	78	9,922	97.5%	0.8%
		1. 受取利息	10,000	78	9,922	97.5%	0.8%
2.	災害支援積立預金戻入収入		0	1,196,048	-1,196,048	-	-
	1.	災害支援積立預金戻入収入	0	1,196,048	-1,196,048	-	-
		1. 災害支援積立預金戻入収入	0	1,196,048	-1,196,048	-	-
3.	前年度繰越金		5,148,665	5,148,665	0	89.1%	100.0%
	1.	前年度繰越金	5,148,665	5,148,665	0	89.1%	100.0%
		1. 前年度繰越金	5,148,665	5,148,665	0	89.1%	100.0%
	合 計		9,158,665	11,017,340	-1,858,675	124.6%	120.3%

#### （支出の部）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.	事業費		5,465,171	5,465,171	0	147.9%	100.0%
	1.	事業費	5,451,131	5,451,131	0	147.6%	100.0%
		1. 支援団体寄贈	1,212,727	1,212,727	0	76.1%	100.0%
		2. その他事業費	4,238,404	4,238,404	0	201.8%	100.0%
	2.	雑費	14,040	14,040	0	-	100.0%
		1. 雑費	14,040	14,040	0	-	100.0%
2.	予備費		3,693,494		3,693,494	-	-
			(1,205,171)				
			3,693,494		3,693,494	-	-
3.	剰余金			5,552,169	-5,552,169	107.8%	-
	1.	剰余金		5,552,169	-5,552,169	107.8%	-
		1. 剰余金		5,552,169	-5,552,169	107.8%	-
	合 計		9,158,665	11,017,340	-1,858,675	124.6%	120.3%

予備費4,898,665円から、以下の費目に1,205,171円の流用を行なった。（単位：円）

費 目	改定予算額	当初予算額	予備費流用額
支援団体寄贈	1,212,727	1,150,000	62,727
その他事業費	4,238,404	3,100,000	1,138,404
雑費	14,040	10,000	4,040
		予備費流用額合計	1,205,171

## 2018年度 三越伊勢丹グループ労働組合 愛の募金特別会計

貸借対照表 (2019年6月30日現在)

(単位:円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
預金	5,552,169	(負債合計)	(0)
災害支援積立預金	1,276,462	災害支援積立金	1,276,462
		剰余金	5,552,169
		(正味財産合計)	(6,828,631)
資産合計	6,828,631	負債及び正味財産合計	6,828,631

財産目録 (2019年6月30日現在)

(単位:円)

摘要			金額
<b>(資産の部)</b>			
預金	三菱UFJ銀行 新宿通支店	普通預金 No.1553871	5,552,169
*預金計			5,552,169
災害支援積立預金	三菱UFJ銀行 新宿通支店	普通預金 No.0180616	1,276,462
資産合計			6,828,631
<b>(負債の部)</b>			
負債合計			0
<b>(正味財産の部)</b>			
災害支援積立金			1,276,462
剰余金			5,552,169
正味財産合計			6,828,631

<重要な会計方針>

1. 資金の範囲には、現金・預金・立替金・未払金・預り金を含めている。

剰余金の内訳

(単位:円)

勘定科目	期首残高	増加	減少	2019/6/30現在
預金	5,196,854	4,672,627	4,317,312	5,552,169
立替金	0	200,000	200,000	0
小計	5,196,854	4,872,627	4,517,312	5,552,169
未払金	48,189	625,742	673,931	0
小計	48,189	625,742	673,931	0
差引残高	5,148,665	4,246,885	3,843,381	5,552,169

2018年度の事業内容 (2019年6月30日現在 単位:円)

○愛の募金による事業

<災害支援等>	
平成30年米原市竜巻災害義援金	150,000
2018年インドネシア・ロンボク島地震救援金	100,000
平成30年7月豪雨災害緊急支援カンパ	600,000
平成30年7月豪雨災害義援金	298,404
平成30年7月豪雨災害従業員災害見舞金	1,200,000
2018年インドネシア・スラウェシ島地震救援金	100,000
平成30年台風21号・北海道地震カンパ	200,000
平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	300,000
2019年モザンビークサイクロン救援金	100,000
合計	3,048,404

<本部支援団体>	
日本自然保護協会	100,000
日本盲導犬協会	100,000
日本ユニセフ協会	100,000
<支部支援団体>	
児童養護施設羊ヶ丘養護園 (札幌)	49,107
乳児院さゆり園 (函館)	49,039
陽光福祉会エコー療育園 (仙台)	44,960
児童発達支援センターこころん (新潟)	45,684
心身障害児福祉センターいこいの家 (静岡)	50,295
児童養護施設名古屋市ひばり荘 (名古屋)	49,970
社会福祉法人やぎ (広島)	49,996
児童養護施設讃岐学園 (高松)	49,680
松山信望愛の家 (松山)	50,000
児童福祉施設東峰村立美星保育所・他 (岩田屋三越)	46,898
社会福祉法人うらわ学園 (三越伊勢丹)	49,453
彩会喜楽家 (三越伊勢丹)	47,610
社会福祉法人松ヶ丘園 (三越伊勢丹)	41,000
社会福祉法人府中はるみ福祉園 (三越伊勢丹)	45,420
一般社団法人クリスタル・ヴィ・アンサンブル (三越伊勢丹)	50,000
セカンドハーベストジャパン (IMFS)	49,646
NPO法人なかよし会 (MIC)	47,702
社会福祉法人セイウ川崎授産学園 (関連Ⅱ)	50,000
東京都盲人福祉協会 (関連Ⅳ)	46,267
合計	1,212,727

○災害支援積立金による事業

<災害支援等>	
北海道胆振東部地震従業員災害見舞金	1,190,000
合計	1,190,000

## 2018年度 三越伊勢丹グループ労働組合 総合貸借対照表

(2019年6月30日現在)

(単位：円)

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
現金	423,116	未払金	10,119,949
預金	587,214,585	預り金	869,156
有価証券	4,535,892,089	長期前受金	4,086,833
未収金	1,759,634	(負債合計)	(15,075,938)
未収収益	2,529,474		
立替金	169,598		
建物および建物付属設備	143,687,784		
什器備品	9,148,918	固定資産等見返勘定	164,119,323
土地	474,900	剰余金	5,116,999,391
ソフトウェア	3,194,554	災害支援積立金	1,276,462
出資金	11,500,000	(正味財産合計)	(5,282,395,176)
保証金	200,000		
災害支援積立預金	1,276,462		
<b>資産合計</b>	<b>5,297,471,114</b>	<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>5,297,471,114</b>

### 総合財産目録

(単位：円)

摘要		金額
<b>(資産の部)</b>		
現金		423,116
預金	普通預金	421,519,593
	外貨預金	65,694,992
	定期預金	100,000,000
*預金計		587,214,585
有価証券	(株)三越伊勢丹ホールディングス株式 (3,228,191株) 有価証券諸口	1,921,747,330 2,614,144,759
*有価証券計		4,535,892,089
未収金		1,759,634
未収収益		2,529,474
立替金		169,598
建物および建物付属設備	リゾート施設 (ハワイオアフ島ワイキキビーチタワー2504) リゾート施設 (ハワイオアフ島ワイキキビーチタワー2701) 本部組合事務所(電気工事他) 由布院クラブ	47,443,224 94,281,232 1,286,350 676,978
*建物および建物付属設備計		143,687,784
什器備品	リゾート施設 (ハワイオアフ島ワイキキビーチタワー2701・2504) 本部組合事務所什器備品 支部組合事務所什器備品	4,270,249 4,562,044 316,625
*什器備品計		9,148,918
土地	由布院クラブ	474,900
*土地計		474,900
ソフトウェア	会計ソフト パワフル会計	3,194,554
出資金	労働金庫出資金、他	11,500,000
保証金	由布院クラブ	200,000
災害支援積立預金		1,276,462
<b>合計</b>		<b>5,297,471,114</b>
<b>(負債の部)</b>		
未払金		10,119,949
預り金		869,156
長期前受金	ハワイコンドミニアム改装時のアストン社からの改装立替金	4,086,833
<b>合計</b>		<b>15,075,938</b>
<b>(正味財産の部)</b>		
固定資産等見返勘定		164,119,323
災害支援積立金		1,276,462
剰余金		5,116,999,391
<b>正味財産合計</b>		<b>5,282,395,176</b>

#### <重要な会計方針>

1. 資金の範囲には、現金・預金・有価証券・未収金・未収収益・前払金・仮払金・立替金・未払金・預り金を含めている。
2. 有価証券の評価は移動平均法に基づく原価法による。なお、取得価額と債券金額との差額が金利の調整と認められるものについては、償却原価法を採用している。
3. 有形固定資産については、定額法による減価償却を実施している。